

# 愛媛県島嶼部方言のアクセント

秋山英治

## 1. はじめに

愛媛県・広島県の瀬戸内海中部の島々（芸予諸島）は、いわゆる「京阪式アクセント」と「東京式アクセント」が分布する地域として、アクセント研究の初期段階より注目を集め、その境界がどこにあるかということが議論されてきた。愛宕八郎康隆・神部宏泰ほか（1970）では、7人の研究者による「伯方方言アクセントは結局中国系か四国系か」という同名の論文が掲載され、その境界が愛媛県伯方島（旧、越智郡。現、今治市）と大島（旧、越智郡吉海町・宮窪町。現、今治市）にあること（広島県尾道市から愛媛県伯方島までが「東京式アクセント」、大島以南が「京阪式アクセント」であること）が報告されている。

その後、1980年代後半から1990年代にかけて、芸予諸島の島々に関する調査報告が増えてくる。愛媛県越智郡上島町魚島（旧、魚島村）をとりあげた秋永一枝（1986a・1986b）・上野善道（1989・1990）、松山市（旧、温泉郡）中島をとりあげた清水誠治（1997a）、松山市（旧、北条市）安居島をとりあげた清水誠治（1997b）、大洲市（旧、喜多郡長浜町）青島をとりあげた清水誠治・秋山英治（1996）などである。さらに2000年代には、佐藤栄作（2005）が、1999年に開通した西瀬戸自動車道（通称、「瀬戸内しまなみ海道」「しまなみ海道」。以下、「しまなみ海道」と称す）が周辺の島々にどのような影響を与えるかを解明するために、「京阪式アクセント」と「東京式アクセント」の境界域である伯方島を中心に、広島県尾道市向島・生口島、愛媛県今治市大三島を調査し、その結果を報告している。これらの調査報告によって、それぞれの島が周囲とは違った音調型や類別体系を有することなど、これまで未調査であった島々の実態が知られることとなった。しかし、瀬戸内海には、大小併せて3,000にもおよぶ島があるといわれており、今もなお未調査の島や調査が不十分な島も多く残っている。

本稿では、愛媛県から広島県にかけてのしまなみ海道域の島々においておこなった調査をもとに、愛媛県側の島嶼部のアクセントについて報告する。

## 2. 調査の概要

### 2. 1. 調査地点・話者の略歴

調査地点は、しまなみ海道の愛媛県側の起点となる今治市<sup>いまばりし</sup>から、広島県との県境となる今治市<sup>おおみしま</sup>大三島<sup>いきなしま</sup>や上島町生名島、さらにその周辺地域の島々を含めた合計18地点である。基本的に1つの島を1地点として調査したが、大島と大三島は、先行研究において島内で違いがみられるなどの記述があることから、行政区画をもとに、それぞれ2地点を調査した。調査地点した18地点を示すと、以下の【図1】のようになる。なお、【図1】では、調査地点について、今治市を1番目(①今治市)とし、以下18番目の上島町魚島(⑱魚島)まで、調査地点名の頭に丸数字を付した<sup>1)</sup>。



【図1】調査地点図

人口等の関係から調査ができない場合を除き、各地点で高年層・中年層・若年層の3つの年層を対象として調査しているが、本稿では、高年層の結果のみをとりあげる。基本的に各地点で1人の調査であるが、2人を調査した地点もある。

各地点の話者について、略歴を示すと、以下のようになる。話者の略歴として、イニシャル(個人情報観点から実名はあげず、イニシャルとして示す)・生年・性別(男性をm、女性をfとする)の順に示す。外住歴については、外住歴がある場合のみ( )に示す。

- ①<sup>いまぼりし</sup>今治市<sup>2)</sup> N・T氏 1943年生まれ m  
 N・S氏 1943年生まれ f  
 (19歳～21歳東京、25歳～27歳愛媛県松山市)
- ②<sup>くるしま</sup>来島 (今治市) Y・K氏 1936年生まれ m  
 K・K氏 1944年生まれ m
- ③<sup>おしま</sup>小島 (今治市) Y・T氏 1946年生まれ m
- ④<sup>おおしまよしうみちよう</sup>大島吉海町 (今治市) I・S氏 1956年生まれ m
- ⑤<sup>おおしまみやくぼちよう</sup>大島宮窪町 (今治市) M・M氏 1944年生まれ m  
 (16歳～18歳愛媛県今治市)
- ⑥<sup>つしま</sup>津島 (今治市) F・N氏 1940年生まれ m
- ⑦<sup>うしま</sup>鵜島 (今治市) O・A氏 1956年生まれ m  
 (16歳～18歳広島県尾道市、19歳から数年間広島県尾道市因島)
- ⑧<sup>はかたじま</sup>伯方島 (今治市) A・S氏 1949年生まれ m
- ⑨<sup>おおしまかみうらちよう</sup>大三島上浦町 (今治市) K・A氏 1958年生まれ f
- ⑩<sup>おおしまおみしまちよう</sup>大三島大三島町 (今治市) K・T氏 1948年生まれ m  
 (16歳～18歳愛媛県松山市、19歳～25歳岩手県)
- ⑪<sup>おおげしま</sup>大下島 (今治市) I・K氏 1948年生まれ m  
 T・E氏 1948年生まれ m  
 (20歳～48歳兵庫県神戸市)
- ⑫<sup>こおげしま</sup>小大下島 (今治市) H・A氏 1941年生まれ m  
 (16歳～18歳広島県豊田郡大崎上島町、19歳～20歳長崎県、21歳～65歳広島県尾道市瀬戸田町)
- ⑬<sup>おかむらじま</sup>岡村島 (今治市) B・J氏 1956年生まれ m  
 (16歳～18歳愛媛県松山市、19歳～22歳大阪府、23歳～24歳愛媛県今治市)
- ⑭<sup>いわぎじま おちぐんかみしまちよう</sup>岩城島 (越智郡上島町) T・N氏 1943年生まれ f  
 (16歳～18歳愛媛県松山市)
- ⑮<sup>さしま</sup>佐島 (越智郡上島町) K・K氏 1954年生まれ f  
 (25歳～34歳広島県尾道市因島)
- ⑯<sup>いきなじま</sup>生名島 (越智郡上島町) H・Y氏 1948年生まれ m  
 (16歳～18歳愛媛県今治市、19歳広島県広島市、21歳～25歳京都府)
- ⑰<sup>ゆげしま</sup>弓削島 (越智郡上島町) K・M氏 1948年生まれ m

⑱<sup>うおしま</sup>魚島（越智郡上島町）

（19歳～20歳大阪府・神奈川県横浜市）

N・K氏 1949年生まれ m

（16歳～18歳愛媛県西条市、19歳～20歳大阪）

## 2. 2. 調査方法・調査語彙

調査方法は、話者に調査票を読んでもらう「読ませる調査」である。調査は、2013年～2019年におこなった。

調査語彙は、上野善道氏が作成された「私家版調査票（A）」をもとに私に編んだものを用いた。

すべての語ではないものの、名詞では、単独言い切り・助詞「ガ」「モ」付き・「コノ」付き、動詞では、終止形・連体形（「トキ」接続形）・過去形（助動詞「タ」接続形）・否定形（助動詞「ン」接続形）・意志形（助動詞「ウ・ヨウ」接続形）・禁止形（助動詞「ナ」接続形）・命令形、形容詞では、終止形・連体形（「モノ」接続形）・過去形（助動詞「タ」接続形）・「ナイ」接続形・「ナル」接続形を調査している。ただし、本稿では、紙面の都合上、名詞のみをとりあげる。

本稿で用いる表記は、以下の通りである。

┌ 大幅な上昇	% 中幅な上昇
大幅な下降	! 中幅な下降
┌┌ 拍内上昇	拍内下降
○ 任意の自立語の拍	▽ 任意の付属語の拍

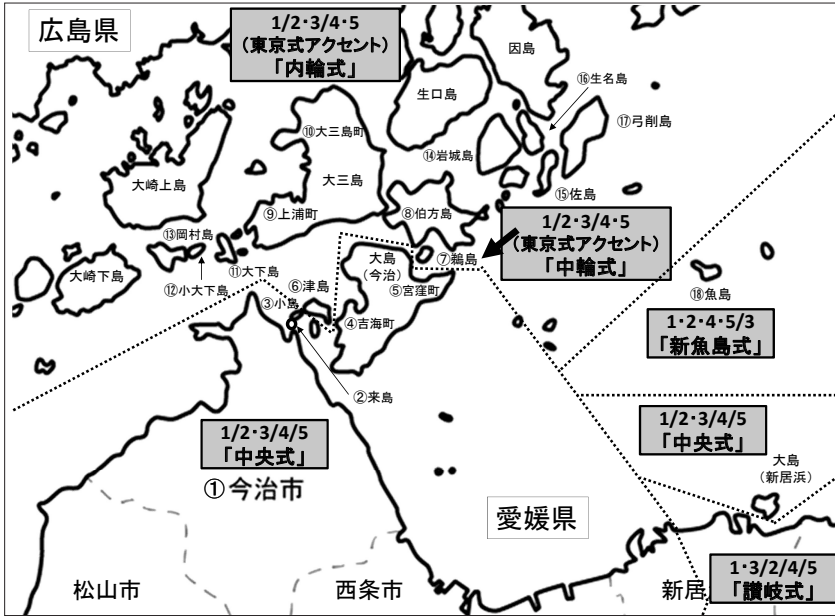
また、高い音調をH、低い音調をL、その中間をMとし、〈下げ核〉の位置を数字で表す（〈下げ核〉がない無核は0と表す）表記も併せて用いる。

## 3. 類別体系からみた愛媛県島嶼部方言

愛媛県島嶼部方言の分布状況を示すにあたっては、上野善道（1985）に従い、2拍名詞の類別体系を基準とした分類（「～式」）を用いる<sup>3)</sup>。いわゆる「東京式アクセント」については、2拍名詞だけでなく、1拍名詞の類別体系によって、「中輪式」（2拍名詞1/2・3/4・5、1拍名詞1・2/3）、「内輪式」（2拍名詞1/2・3/4・5、1拍名詞1/2・3）、「外輪式」（2拍名詞1・2/3/4・5、1拍名詞1/2・3）の3タイプにわけられる（山口幸洋（1985）など）ことから、1拍名詞も含めた分類を用いる。ただし、清水誠治（2010）が指摘するように、「アクセ

トのタイプの類型と類別体系とは別次元のもの」であることから、適宜「京阪式アクセント」「東京式アクセント」の名称も用いる。

愛媛県島嶼部方言の分布状況を示すと、【図2】のようになる。【図2】では、「式」がどこで変わるかがわかるように、境界を点線で示した<sup>4)</sup>。



【図2】 類別体系からみた愛媛県島嶼部方言

今回の調査により、アクセント研究の初期段階より注目を集めてきた、「京阪式アクセント」(「中央式」)と「東京式アクセント」の境界が、今治市大島(④大島吉海町・⑤大島宮窪町)と⑦鶴島・⑧伯方島の間にあることが確認された。境界が、今治市大島と鶴島・伯方島の間にあることについては、すでに佐藤栄作(2005)や吉田健二・清水誠治(2015)が報告しているが、今回の調査においても改めて確認された。

今回の調査で新たに明らかになったのが、今治市沖の島で、今治市大島に隣接する②来島・③小島・⑥津島のうち、⑥津島に「東京式アクセント」(「内輪式」(2拍名詞1/2・3/4・5、1拍名詞1/2・3))が分布しているということである。これらの3島については、馬島(未調査)や無人島の比岐島<sup>5)</sup>を併せて「来島群島」と呼ばれ、行政区画上、同地域としてまとめられるが、⑥津島のみが「内輪式」で、他の島と異なる結果であった。⑥津島へは、今治市大島(吉海町幸港<sup>さいかい</sup>)からの渡船(1日3往復)があるのみで、基本的に今治市大島との交流が主であるが、地理的に

やや離れた大三島（⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町）や関前諸島（⑪大下島・⑫小大下島・⑬岡村島）と同じ「内輪式」であった。ただし、音調については、大三島（⑨上浦町・⑩大三島町）や関前諸島（⑪大下島・⑫小大下島・⑬岡村島）と異なる。「中央式」と「東京式アクセント」の中間的な面がみられるなど、周辺の島にはない特徴が確認された。

さらに、新たに明らかになったのが、⑱魚島の2拍名詞の類別体系が先行研究（秋永一枝（1986a・1986b）・上野善道（1989・1990））が報告する1・2/3/4・5ではなく、1・2・4・5/3であったということである。今回の調査で先行研究と異なる結果が得られたのは、今回調査した話者の生年が、先行研究の話者と比べて若いことによる。つまり、⑱魚島において、先行研究が報告する1・2/3/4・5の体系から、1・2・4・5/3の体系への変化が起きている。清水誠治（2010）では、暫定的であるものの、先行研究が報告する1・2/3/4・5の類別体系を「魚島式」と表記していることから、本稿では、清水誠治（2010）をふまえ、1・2・4・5/3の類別体系を「新魚島式」と称す。

以上、今回の調査によって、「中央式」（「京阪式アクセント」）と「東京式アクセント」の境界が、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と⑧伯方島・⑦鶴島の間、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と大三島（⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町）の間、②来島・③小島と⑥津島の間にあること、また⑱魚島の2拍名詞の類別体系が先行研究と異なるものであることなどが明らかになった。

以下、「中央式」が分布する地域、「東京式アクセント」（「中輪式」「内輪式」）が分布する地域、「新魚島式」が分布する地域の3つにわけ、それぞれの地域の特徴について述べる。

### 3. 1. 「中央式」が分布する地域

2拍名詞の類別体系が1/2・3/4/5の「中央式」は、四国本土（愛媛県）では、新居浜市西部<sup>6)</sup>から西条市、①今治市、そして松山市（旧、伊予市）まで、東中予地域に連続して分布している。島嶼部では、②来島、③小島、④大島吉海町、⑤大島宮窪町に分布している。

「中央式」が分布する地域のなかから、①今治市をとりあげ、1～3拍名詞の類別体系を示すと、以下ようになる。

1拍名詞	1 (H0型) / 2 (H1型) / 3 (L0型)
第1類	「○ (—)      「○ (—) ▽      H0型
第2類	「○   (—)      「○   (—) ▽      H1型

第3類	○「(一)	○「(一)▽	L0型		
2拍名詞	1 (H0型) / 2・3 (H1型) / 4 (L0型) / 5 (L2型)				
第1類	「○○	「○○▽	H0型		
第2類	「○ ○	「○ ○▽	H1型		
第3類	「○ ○	「○ ○▽	H1型		
第4類	○「○	○「○▽	L0型		
第5類	○「○	○「○ ▽	L2型		
3拍名詞 <sup>7)</sup>	1 (H0型) / 2・4 (H1型~H2型~L2型) / 5 (H1型~L2型) / 6 (L0型) / 7 (L2型)				
第1類	「○○○	「○○○▽	H0型		
第2類	「○ ○○~	「○○ ○	「○ ○○▽~	「○○ ○▽	H1型~H2型
	~○「○ ○		~○「○ ○▽	~L2型	
第4類	「○ ○○~	「○○ ○	「○ ○○▽~	「○○ ○▽	H1型~H2型
	~○「○ ○		~○「○ ○▽	~L2型	
第5類	「○ ○○~○「○ ○	「○ ○○▽~○「○ ○▽	H1型~L2型		
第6類	○「○○	○「○○▽	L0型		
第7類	○「○ ○	○「○ ○▽	L2型		

①今治市をはじめとした愛媛県の「中央式」では、〈式〉の対立（〈平進式〉と低〈低接上昇式〉）がある。一方、「東京式アクセント」（「中輪式」「内輪式」）や「新魚島式」には、〈式〉の対立はない。このことから、「中央式」と「東京式アクセント」の境界は、〈式〉の対立の有無の境界ともなる。

四国本土の「中央式」では、「下降式音調」が聴かれることが知られている（秋山英治（2017）など）が、島嶼部における「下降式音調」の分布域については、よくわかっていない。今回の調査によって、愛媛県島嶼部の「中央式」（②来島・③小島・④大島吉海町・⑤大島宮窪町）にも「下降式音調」が聴かれることが明らかになった。ただし、四国本土の「中央式」で聴かれる「下降式音調」とくらべると、下降の幅が狭く、また出現頻度も低い。上野善道（1988b・1995）によれば、「下降式音調」は、〈低接上昇式〉とセットになって聴かれる、つまり〈式〉の対立がある地域で聴かれることを報告しているが、今回の調査では、〈式〉の対立のない島々（「中央式」と「東京式アクセント」の境界域の⑥津島・⑦鶴島・⑧伯方島・⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町）でも聴かれることが確認された。「下降式音調」が聴かれるものの、〈式〉の対立のないこれらの島々は、現在では〈式〉が消失している（⑥津島・⑦鶴島には、〈式〉の残存と考えられる現象がみられる）が、もともとは〈下降式〉と〈低接上昇式〉が対立していた、つまり〈式〉の対立があった可能性が考えられる。

愛媛県島嶼部の「中央式」のなかで、特徴的な現象を示しているのが、③小島である。小島では、2拍名詞第4類が、L0型とL2型の2つの型にわかれる。

L0型	板・糸・稲・臼・海・帯・笠・数・肩・銭・種・杖・粒・中・何・ <sup>のみ</sup> 盤・ 橋・船・他・松・味噌・麦・宿・罌・ <sup>わら</sup> 藁……………4 a
L2型	跡・息・ <sup>かど</sup> 角・鎌・杵・今日・屑・ <sup>くだ</sup> 管・今朝・桁・下駄・ <sup>さや</sup> 鞘・汁・筋・ 外・側・空・苗・針・ <sup>へら</sup> 篋・蓑 (H1型も) ……………4 b

L0型となる語とL2型となる語はほぼ同数で、2拍名詞第4類が二分していることがわかる。便宜的に、L0型をa、L2型をbとすると、類別体系は、1 (H0型) / 2・3 (H1型) / 4 a (L0型) / 4 b・5 (L2型) となる。第4類が、L0型とL2型で二分する現象は、対岸の新居浜市多喜浜(「讃岐式」(2拍名詞1・3/2/4/5))と類別体系が異なり、飛び地的な「中央式」となる新居浜市大島(今治市の大島と区別するために、「新居浜市大島」と称す)にもみられる(秋山英治(2016))。③小島と新居浜市大島では、それぞれの型となる語が必ずしも一致していないが、地理的に近い島に同様の現象がみられる点は興味深い。新居浜市大島には、②来島と共通する特徴もみられており(秋山英治(2016))、古く②来島や③小島との交流があった可能性も考えられる。

③小島でL2型となる語のうち、「角」「今日」「今朝」「筋」は、①今治市などの「中央式」でも例外的にL2型となる語である。「鞘」は、「東京式アクセント」で例外的に2型となる語である。語数としてはわずかであるが、⑤小島には、「中央式」「東京式アクセント」それぞれの特徴を併せ持つ部分もある。

さらに、③小島では、1拍名詞第2類が、H0型となる点が特徴的である。京都方言をはじめとした「中央式」諸方言では、1拍名詞第2類は、H1型が一般的である。愛媛県においても、松山市や、今回の調査地点である①今治市・②来島もH1型である。1拍名詞第2類が、③小島と同様にH0型となるのが、④大島吉海町・⑤大三島宮窪町である。厳密には、⑤大島宮窪町では、H1型とH0型との間で揺れている状態であるが、これらの地点では、1拍名詞第2類がH0型となる。「中央式」と「東京式アクセント」の境界域の⑦鶴島においても、1拍名詞第2類が0型となることから、1拍名詞第2類がH0(0)型(類別体系が1・2/3)となるのは、地域的な特徴といえそうである。



### 3. 2. 「東京式アクセント」(「中輪式」「内輪式」)が分布する地域

#### 3. 2. 1 「内輪式」方言

「東京式アクセント」(「中輪式」「内輪式」)が分布する地域は、⑥津島・⑦鶴島・⑧伯方島・⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町・⑪大下島・⑫小大下島・⑬岡村島・⑭岩城島・⑮佐島・⑯生名島・⑰弓削島である。「中央式」が分布する地域と異なり、〈式〉はなく、〈下げ核〉の有無と位置が弁別的なタイプである。

これらの地域では、2拍名詞の類別体系は、すべて1/2・3/4・5で同じであるが、1拍名詞の類別体系が異なる。「中央式」と「東京式アクセント」の境界域の⑦鶴島は、1・2(0型)/3(1型)で「中輪式」である<sup>8)</sup>。上述したように、隣接する④大島吉海町・⑤大三島宮窪町において、1拍名詞第2類がH0型で、地域的な特徴として、1拍名詞第2類が0(H0)型となる。

その他、⑦津島を除く地域では、1(0型)/2・3(1型)で「内輪式」である。ただし、多くの地域で、1拍名詞第2類が0型と1型との間で揺れており、厳密には「内輪式」と断定することはできない。本稿では考察の対象ではないが、広島県尾道市因島いんのしまを調査したところ、1拍名詞第2類は1型で、「内輪式」(1(0型)/2・3(1型))であった。⑦津島を除くこれらの地域は、1拍名詞第2類が(H0)0型の③小島・今治市大島(④大島吉海町・⑤大三島宮窪町)・⑦津島と、1拍名詞第2類が1型の広島県尾道市因島側に挟まれた地域で、0型と1型とで揺れている。便宜的に、1拍名詞第2類の0型をa、1型をbとすると、類別体系は、(1・2a(0型)/2b・3(1型))となる。本稿では、全体的に1型の方が多くみられることから、暫定的に「内輪式」とした<sup>9)</sup>。

「東京式アクセント」が分布する地域のなかから、「内輪式」の⑭岩城島をとりあげ、1～3拍名詞の類別体系を示すと、以下のようになる。

1拍名詞	1(0型)/2・3(1型)		
第1類	○(←)	○(←)▽	0型
第2類	○  (←)	○  (←)▽	1型
第3類	○  (←)	○  (←)▽	1型
2拍名詞	1(0型)/2・3(2型)/4・5(1型)		
第1類	○○	○○▽	0型
第2類	○○	○○ ▽	2型
第3類	○○	○○ ▽	2型
第4類	○ ○	○ ○▽	1型
第5類	○ ○	○ ○▽	1型

3拍名詞	1・6 (0型) / 2・4 (3型) / 5 (2型~1型~3型~0型) / 7 (1型~2型~0型)		
第1類	○○○	○○○▽	0型
第2類	○○○	○○○   ▽	3型
第4類	○○○	○○○   ▽	3型
第5類	○○   ○~○   ○○ ~○○○   ~○○○	○○   ○▽~○   ○○▽ ~○○○   ▽~○○○▽	2型~1型 ~3型~0型
第6類	○○○	○○○▽	0型
第7類	○   ○○~○○   ○ ~○○○	○   ○○▽~○○   ○▽ ~○○○▽	1型~2型 ~0型

⑭岩城島では、第1拍目に〈下げ核〉のある1型を除き、共通語と同様に、第1拍目が低く（時に中程度の場合もあるが）、第2拍目以降〈下げ核〉の位置まで高が続く音調である。3拍無核語（0型）でいえば、低高高（LHH）～中高高（MHH）となる。

3拍名詞が特徴的で、第5類が、以下のように、1型・2型・3型・0型の4つの型にわかれる。

- 1型 哀れ（2型も）・五つ（2型も）・親子・胡瓜<sup>きゅうり</sup>・帚<sup>ほうき</sup>  
 2型 朝日<sup>あわび</sup>・鮑<sup>あわび</sup>・哀れ（1型も）・五つ（1型も）・従兄弟・命・神楽<sup>かいらい</sup>・鯨<sup>わさび</sup>・  
 心・涙（0型も）・単衣（3型も）・紅葉・山葵<sup>わさび</sup>  
 3型 姿・簾<sup>たすき</sup>・襷<sup>たすき</sup>・情け・柱・単衣（2型も）  
 0型 油<sup>ごころ</sup>・柘榴<sup>ごころ</sup>・涙（2型も）・火箸・枕

語数としては、2型が最も多い。2型となる語のなかには、1型、3型、0型との間で揺れている語もあるが、第5類の半数程度が2型で、2型を中心に4つの型にわかれている。どの語がどの型をとるかについては、地域によって違いがあるものの、⑭岩城島以外の「東京式アクセント」の地域においても、2型を中心に、1型・3型・0型の4つの型（⑩大下島のI・K氏は0型がなく、3つの型）にわかれている。馬瀬良雄（1994）によれば、広島市方言の第5類は、高い年代で主に2型、若い年代で主に1型となることを述べており、広島市方言では、第5類が複数の型にわかれている。馬瀬良雄（1994）の記述を詳しくみると、広島市方言においても、例外的に0型がみられることを報告しているものの、愛媛県島嶼部に多くみられる3型はほとんどなく、この点で違いがある<sup>10)</sup>。

⑭岩城島では、3拍名詞第7類も、以下のように、3つの型にわかれる。

- 1型 蚕・兜・鯨・椿・緑（2型も）・病  
 2型 葉・卵・一つ・一人・緑（1型も）  
 0型 苺・後ろ・辛子・便り・盥<sup>たらい</sup>・鉛・畑

3拍名詞の第7類が3つの型にわかれるという現象は、一部異なりがあるものの、⑪大下島を除く⑭岩城島以外の愛媛県島嶼部にもみられる。3拍名詞第5類も含め、便宜的に1型をa、2型をb、3型をc（第7類は3型なし）、0型をdとすると、類別体系は、1・5d・6（0型）／2・4・5c（3型）／5a・7a（1型）／5b・7b（2型）となる。

3拍名詞第7類について、上野善道（2006）によれば、日本語諸方言の祖体系において、2つの型（上野善道（2006）では、a類とb類と表記）にわかれていた可能性を述べている。平子達也・桑畑遥・渡部彩乃（2019）は、上野善道（2006）の記述をもとに、埼玉県旧入間方言<sup>いるま</sup>・島根県出雲市大社方言<sup>いずも たいしゃ</sup>・愛知県新城市方言<sup>しんしろ</sup>・広島県広島市方言・東京方言の5方言においても、2つの型にわかれることを述べ、旧入間方言の2つの型が、日本語諸方言の祖体系の区別を保持したものと考えている<sup>11)</sup>。この平子達也・桑畑遥・渡部彩乃（2019）の報告と愛媛県島嶼部の結果を比較したところ、概ね同じ（上記1・2型が、上野善道（2006）のいうa型、上記0型がb型に対応）であった。このことから、愛媛県島嶼部において、3拍名詞第7類は、日本語諸方言の祖体系の区別を保持している可能性が考えられる。

愛媛県島嶼部の「東京式アクセント」において、地域的な特徴があるのが、⑪大下島である。⑪大下島では、3拍名詞第6類に、0型だけでなく、3型がみられ、2つの型にわかれる。⑪大下島では、話者が2人いることから、それぞれの状況を、以下に示す。なお、話者2人ともに同じ型となる語については、下線を付す。

【I・K氏】

- 0型 鰻・狐・雀・長さ・鼠・裸・裸足・左・雲雀・みみず・蓬<sup>よもぎ</sup>  
 3型 菖蒲<sup>あやめ</sup>・兎・鷗<sup>しらみ</sup>・すすき・背中・高さ・田圃・燕

【T・E氏】

- 0型 菖蒲・兎・鰻・狐・鼠・雀・李・鼠・みみず・蓬  
 3型 大人・鷗・すすき・背中・高さ・団子・田圃・燕・長さ・裸・裸足・左・雲雀

T・E氏は、0型より3型の方がやや多いが、2人ともに、概ね0型と3型それぞれが同数程度となっており、3拍名詞第6類が二分している状態である。2人とも同

じ型となる語は、0型が6語（「鰻」「狐」「雀」「鼠」「みみず」「蓬」）、3型が4語（「すすき」「背中」「田圃」「燕」）で、それほど多くない。どの語が0型となり、どの語が3型となるかについては、話者によって違う、つまり個人差があることがわかる。

⑪大下島の周辺をみると、⑨大三島上浦町・⑫小大下島・⑬岡村島においても、「虱」が3型となっているが、他の第6類の語で3型となるものはなく、「虱」は地域的な例外である。全国的にみても、3拍名詞第6類に3型がみられるのは珍しい。上野善道（1989）によれば、具体的な音調型は⑪大下島と異なるものの、今回の調査地点である⑱魚島において、0型とともに3型がみられることを指摘している。調査語に違いがあるが、上野善道（1989）の記述を、以下に示す。上野善道（1989）では、11人の話者に調査をおこなっており、話者による型の違いがわかるように示していることから、話者によって型が異なる語（個人差のある語）について、\*を付す（一部例外もあるが、0型と3型ともに\*を付している語は、0型と3型との間で揺れていることを示す）

#### 【上野善道（1989）】

- 0型 菖蒲\*・いずれ・兎・鰻・大人\*・狐・虱・すすき\*・李\*・高さ・  
田圃\*・燕\*・裸\*・左\*・雲雀\*・広さ・誠
- 3型 菖蒲\*・大人\*・鷗\*・すすき\*・雀・李\*・団子・田圃\*・燕\*・鼠・  
裸\*・裸足・左\*・雲雀\*・みみず・蓬

上野善道（1989）によれば、⑱魚島において、0型と3型がそれぞれがほぼ同数程度となっており、二分している状態である（ただし、今回の調査では、⑱魚島でこの現象は確認されなかった。詳細は3. 3. を参照されたい）。話者11人全員が0型となる語（「いずれ」「兎」「鰻」「狐」「虱」「高さ」「広さ」）、話者11人全員が3型となる語（「雀」「団子」「鼠」「裸足」「みみず」「蓬」）をみると、⑪大下島との対応関係は認められない。⑪大下島と⑱魚島は、直線距離で約30km程度しか離れていないが、それぞれ交通手段が限られており、島同士の交流はほぼないと考えられる。地理的に近いとはいえ、交流がほぼない島々に共通して、3拍名詞第6類が0型と3型に二分するという全国的に珍しい現象がみられるのは、ひじょうに興味深い。

⑪大下島では、3拍名詞第7類においても、他の愛媛県島嶼部の「東京式アクセント」地域にはみられない3型が多くみられるが、上野善道（1989）によれば、⑱魚島においても、3拍名詞第7類は3型となっており、⑪大下島とよく似ている（ただし、今回の調査では、⑱魚島でこの現象は確認されなかった。詳細は3. 3. を参照

されたい)。⑪大下島や⑬魚島で、3拍名詞第6類が0型と3型で二分する（3拍名詞第7類に3型がみられる）理由については、現時点では不明である<sup>12)</sup>。今後の課題としたい。

### 3. 2. 2. 津島方言

類別体系上、「内輪式」（2拍名詞1/2・3/4・5、1拍名詞1/2・3）の⑥津島では、音調面において、他の「東京式アクセント」の地域と異なる点がみられる。

⑥津島では、句頭の音調が2種類ある。3拍無核語（0型）を例として示すと、以下のようになる。

- A 「○○○                    魚・桜・煙（第1類）・鰻・狐・裸（第6類）……  
 B ○「○○～○○」○ 枕（第5類）・菖蒲（第6類）・団子（第6類）・薬（第7類）

Aが〈平進式〉、Bが〈（低接）上昇式〉のような音調で、一見すると、〈式〉の対立があるように思える。ただし、数的にみると、大半がA系列の音調で、B系列の音調は上記にあげた4語のみで、ひじょうに少ない（「団子」については、Aの「○○○」もみられる）。今回調査した1～4拍語において、有核語を含めて、B系列の音調は少なく、大半の語は、句頭が高く始まる音調である。ただし、例外となるのが、2型である。

4拍名詞は調査語数が少ないことから、3拍名詞を例に、2型の音調についてみると、「椿」「一つ」「一人」など一部の語<sup>13)</sup>では、高く始まるA系列の音調（「○○ | ○」）がみられるものの、大半がB系列の音調（○「○ | ○」）である。2型のみB系列の音調となるという現象は、〈下降式〉を有する「讃岐式」諸方言の状況と似ている。「讃岐式」では、音声的に類似する「下降式音調」（「○○ ! ○」）とH2型（「○○ | ○」）が紛れるのを避けるために、H2型を欠き、本来H2型となる語が、H1型やL2型になる。上述したように、⑥津島においても、「下降式音調」が聴かれることから考えると、⑥津島において、音声的に類似する「下降式音調」と紛れるのを避けるために、B系列の音調となった可能性が考えられる。このように考えると、かつて⑥津島に〈下降式〉があったことになる。

〈下降式〉が存在していたとすれば、それに対立する〈式〉（〈（低接）上昇式〉）があったことになる。B系列の音調として、4拍語では、「座布団」「友達」「縄跳び」「鶏」「人参」がある（2型を除く）。これらの語について、秋山英治（2017）をもとに、〈式〉の対立のある松山市・今治市と比較すると、以下のようになる。

	津島	松山市	今治市
座布団	〇〇「〇 〇 (〇「〇 〇〇も)	L0型、L3型	L0型、L2型
友達	〇〇〇「〇	H0型	H0型
縄跳び	〇〇「〇 〇	L3型	L3型
鶏	〇〇〇「〇	L0型	L0型
人參	〇〇〇「〇	L0型	L0型

「友達」以外は、音調・型が対応している。松山市・今治市で、地域的に類の例外としてL3型となる「昔」（3拍名詞第1類）は、⑥津島においても、B系列の音調（〇〇「〇|・〇〇「〇|▽）であり、さらに「この」が先行した場合に、「昔」は低接する。このように、⑥津島には、〈（低接）上昇式〉の特徴が残存しており、かつて〈式〉の対立があったと考えられる。

ただし、〈（低接）上昇式〉の特徴は、わずかにみられる程度で、現在も〈式〉の対立があるとはいえない。かつて存在していた〈式〉の対立の名残が、垣間見られるという状態である。

⑥津島では、2拍名詞に、3種類の音調がある。それぞれ単独形、文節形・短文形を示すと、以下ようになる。

単独形	文節形・短文形	
(1) 「〇〇	「〇〇▽	0型（主に第1類）
(2) 「〇〇	「〇〇 ▽	2型（主に第2・3類）
(3) 「〇 〇	「〇 〇▽	1型（主に第4・5類）

特徴的なのは、(2)で、単独形において、末尾拍に拍内下降がみられる。名詞における末尾拍の拍内下降は、他のいわゆる「東京式アクセント」の地域ではみられない⑥津島だけの現象である。この拍内下降は、「が」などの助詞が続いた文節形や短文形では消えてしまうが、「この」が先行した場合には、「この〇〇||」となり、拍内下降がみられる。ただし、すべての2型が、単独形において拍内下降となるわけではない。語によっては、単独形が「〇〇」と、(1)の0型と同じ音調になることもある。単独形では0型と区別がつかないが、「が」などの助詞が続くと、(2)は語末に〈下げ核〉が生じ、「〇〇|▽（2型）」となり、(1)の「〇〇▽」（0型）と区別される。

拍内下降は、1拍名詞や3拍名詞にもみられる。

	単独形	文節形・短文形	この～	
1拍語	「○ 」	「○ ▽」	「この○ 」	1型
3拍語	「○○○ 」	「○○○ ▽」	「この○○○ 」	3型

1拍名詞では、「葉」「矢」「木」「手」など、主に第2・3類の単独形と「この～」に拍内下降がみられる（文節形・短文形ではみられない）。ただし、1型となる語すべてに拍内下降がみられるわけではない。単独形と「この～」において、拍内下降がみられない1型の語もある。

3拍名詞で、単独形と「この～」に拍内下降がみられるのは、「娘」の1語のみである。その他では、「頭」において、単独形と文節形・短文形で2型となるものの、「この～」で拍内下降（「この○○○|」）がみられる。3拍名詞の拍内下降は、この2語のみである。

⑥津島は、類別体系上、「内輪式」（2拍名詞1/2・3/4・5、1拍名詞1/2・3）でありながら、音調面において、他の「東京式アクセント」の地域と異なりがある。京都府における「垂井式」について論じた中井幸比古（1990・1991）では、⑥津島と似た状態が、京都府の北東部にみられることを報告している。中井幸比古（1990）では、「垂井式」の諸タイプを分類しているが、そこでの分類によると、⑥津島は、「東京式f型」となる<sup>14)</sup>。

この⑥津島とよく似た状態にある地域が、⑥津島の周辺に存在することが、清水誠治（1997）によって報告されている。清水誠治（1997）によれば、⑥津島から直線距離で約25km離れた松山市（旧、北条市）沖の安居島<sup>あいにじま</sup>において、句頭の音調や拍内下降など⑥津島と同じ現象がみられることを報告している。⑥津島と安居島は、直線距離としては25km程度しか離れていないが、⑥津島は、今治市大島（吉海町幸港）からの渡船（1日3便）があるのみであり、また安居島も、松山市北条港からの渡船（1日1往復。水曜日・第1土曜日は1日2往復）があるのみで、両島をつなぐ交通手段はない。地理的に近いものの、両島の交流はまず考えられない。中井幸比古（1990・1991）では、京都府の「垂井式」が、清水誠治（1997）では、安居島の「東京式アクセント」（「中輪式」）が、それぞれの地域（島）で自律的な変化によって誕生したことを指摘している。これらの地域（島）と同様に、⑥津島においても、「中央式」から「東京式アクセント」（「内輪式」）への変化が自律的に起きたものと考えられる<sup>15)</sup>。

### 3. 3. 「新魚島式」が分布する地域

愛媛県島嶼部において、「新魚島式」（2拍名詞の類別体系1・2・4・5/3）が分布する地域は、⑱魚島のみである。

⑱魚島については、秋永一枝 (1986a・1986b)・上野善道 (1989・1990) によって、2拍名詞の類別体系が周辺部にはみられない1・2/3/4・5で、ひじょうに複雑な音調であることが報告されている。1～3拍名詞の音調について、上野善道 (1989) の記述をもとに、そこで用いられている傍線式の表記を、本稿の表記に変更して示すと、以下のようになる。

## 1拍名詞

手	「 <u>〇</u> ～ <u>〇</u>	「 <u>〇</u> ガ～ <u>〇</u> 「ガ	〇「 <u>カラ</u>   ～「 <u>〇</u> カラ	0型
蚊	「 <u>〇</u>   ～「 <u>〇</u>	「 <u>〇</u> ガ  ～「 <u>〇</u>  ガ	〇「 <u>〇</u> ラ  ～「 <u>〇</u> カラ	1型

## 2拍名詞

松	〇「 <u>〇</u> ～ <u>〇〇</u>	〇「 <u>〇</u> ガ～ <u>〇〇〇</u>	〇「 <u>〇</u> カラ	0型
水	「 <u>〇〇</u>   ～「 <u>〇〇</u> ! ～「 <u>〇</u>   <u>〇</u>	〇「 <u>〇</u> ガ  ～「 <u>〇〇</u> ガ	〇「 <u>〇</u> カ ラ ～「 <u>〇〇</u> カ ラ	2型
犬	「 <u>〇〇</u>   ～「 <u>〇〇</u> ! ～「 <u>〇</u>   <u>〇</u>	「 <u>〇〇</u>  ガ～「 <u>〇〇</u>   ガ ～ <u>〇</u> 「 <u>〇</u>  ガ	「 <u>〇〇</u>  カラ ～ <u>〇</u> 「 <u>〇</u>  カラ	1型

## 3拍名詞

兎	〇「 <u>〇〇</u> ～ <u>〇〇〇</u>	〇「 <u>〇〇</u> ガ～ <u>〇〇〇</u> ガ	〇「 <u>〇〇</u> カラ	0型
兜	〇「 <u>〇〇</u>   ～「 <u>〇〇〇</u>	〇「 <u>〇〇</u> ガ   ～「 <u>〇〇〇</u> ガ	〇「 <u>〇〇</u> カ ラ ～「 <u>〇〇〇</u> カ ラ	3型
車	〇「 <u>〇〇</u>   ～「 <u>〇〇〇</u>	〇「 <u>〇〇</u>  ガ ～「 <u>〇〇〇</u>  ガ	〇「 <u>〇〇</u>  カラ ～「 <u>〇〇〇</u>  カラ	2型
男	「 <u>〇〇</u>   <u>〇</u> ～「 <u>〇〇</u>    <u>〇</u> ～ <u>〇</u> 「 <u>〇</u>   <u>〇</u>	「 <u>〇〇</u>   <u>〇</u> ガ～「 <u>〇〇</u>    <u>〇</u> ガ ～ <u>〇</u> 「 <u>〇</u>   <u>〇</u> ガ～	「 <u>〇〇</u>   <u>〇</u> カラ ～ <u>〇</u> 「 <u>〇</u>   <u>〇</u> カラ	1型

上野善道 (1989) によれば、「魚島方言のアクセント体系は、モーラを核の担い手とし、/ ʔ (下げ核) を弁別特徴とする  $P_m = m + 1$  であると解される」とあり、〈式〉の対立はない。

今回の調査でも、〈式〉の対立がないことが確認された。ただし、音調について上野善道 (1989) の報告と異なるものも確認された。以下、今回の調査で確認された音調を示す。以下では、上野善道 (1989) と比較しやすくするために、助詞を▽ではなく、「ガ」として示した。なお、1拍名詞については、まれに長音化がみられるものの、頻出しないことから、長音化していないものとして示した。



## 1 拍名詞

手 「〇～〇	「〇ガ～〇「ガ	0 型
名 「〇～「〇	「〇   ガ	1 型

## 2 拍名詞

鳥 「〇〇～〇〇～〇「〇	「〇〇ガ～〇「〇ガ～〇〇「ガ	0 型
足 「〇〇～「〇〇  ～「〇〇!	「〇〇   ガ～〇「〇   ガ	2 型
杭 「〇   〇	「〇   〇ガ～「〇〇   ガ	1 型

## 3 拍名詞

兎 「〇〇〇～〇「〇〇～〇〇〇	「〇〇〇ガ～〇「〇〇ガ～〇〇〇〇ガ	0 型
車 「〇〇〇～〇「〇〇	「〇〇〇   ～〇「〇〇   ガ	3 型
～「〇〇〇  ～〇「〇〇		
魚 「〇〇   〇～〇「〇   〇	「〇〇   〇ガ～〇「〇   〇ガ	2 型
女 「〇   〇〇	「〇   〇〇～「〇〇   〇	1 型

上野善道 (1989) では、ひじょうに複雑な音調であることを述べているが、今回の調査では、上野善道 (1989) の記述にあるほど複雑ではなかった。ただし、1 拍名詞 1 型の文節形、2 拍名詞 1 型の単独形を除き、1 つの型に、複数の音調が確認されており、他の地域と比較すると複雑である。

⑱魚島において、特徴的なのは、句頭が高く始まる音調がよくみられる点である。この音調は、〈式〉の対立のある地域にみられる〈平進式〉の音調とよく似ている。句頭が高く始まる音調以外にも、共通語のように、始まりが低く、第 2 拍目が高い音調や、いわゆる遅上がりのような音調 (2 拍名詞 0 型の文節形) も聴かれるが、数としては多くない。

また、2 拍名詞の 2 型にのみ、「下降式音調」(のような音調) が聴かれるということも特徴的である。この「下降式音調」(のような音調) は、第 2 拍目が拍内下降となる音調 (「〇〇||) と似ており、どちらの音調か、判断に迷うことがある。「下降式音調」は、〈讃岐式〉諸方言を中心に、松山市や今回の調査地点である今治市などの「中央式」諸方言にもみられる。3. 1. において、今回の調査で、〈式〉の対立のない、「中央式」と「東京式アクセント」の境界域の⑥津島・⑦鶴島・⑧伯方島・⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町などでも「下降式音調」が聴かれることを述べたが、これらの「下降式音調」と同じものとして扱えるかについては、慎重に考える必要がある。詳細については、別稿に譲ることとする。

1 拍名詞を除き、1 型は、他の型と比較して語数が少ない。2～4 拍語で 1 型となる語は、以下の通りである。

- 2拍名詞 杭・藍・舵・缶・勘・<sup>きん</sup>金・象・段・パン・ビン・変・万・門・酔い（0型も）・用・<sup>ろう</sup>蠟
- 3拍名詞 女・心・ノッポ・マッチ・林檎
- 4拍名詞 音楽（3型も）・来月（2型も）

3・4拍語については、調査語数が少ないこともあるが、2拍名詞と比較して1型が少ない。他の型と揺れている語もあるが、これら1型の語をみると、「舵」（※話者が迷いながら発音）「心」以外の語は、第2拍目が特殊拍（撥音・促音・長音・二重母音イ）である。第2拍目が特殊拍であるために〈下げ核〉を担うことができず、1拍前にずれたと考えられる。本稿では、考察の対象としていないが、⑬魚島では、漢語・外来語で、1型となる語は、基本的に第2拍目が特殊拍の語である。ただし、「貝」や漢語「門戸」、外来語「チーズ」など、第2拍目が特殊拍で1型が期待される語で、2型となる語もあり、第2拍目が特殊拍の場合に、必ず1型になるわけではない。1型は、第2拍目が特殊拍の場合に出現する臨時的な型と考えられる<sup>16)</sup>。

その他、⑬津島の特徴として、「この」が先行した場合に、後続の語が低接するという現象がある。1～3拍名詞無核語（0型）を例にあげると、以下のようなになる（低接を\_と表す）。なお、以下では、最も多くみられる句頭が高い音調を示す。

	単独形	文節形	この～
手	「○	「○▽	「この_○
鳥	「○○	「○○▽	「この_○○
兎	「○○○	「○○○▽	「この_○○○

「手」「兎」は、「中央式」において〈上昇式〉となる語であることから、〈上昇式〉の低接性が残存しているように見えるが、「鳥」は「中央式」において〈平進式〉の語である。その他の語をみても、「中央式」で〈上昇式〉の語だけが、低接するのではなく、大半の語で低接がみられる。よって、⑬魚島の低接性は、〈上昇式〉の特徴が残存しているわけではない。

「この～」ほど頻繁ではないものの、短文形においても、文節と文節の間に低接性がみられる。このような低接性については、清水誠治（2006）は、「文節間下降」と呼んでいる。この「文節間下降」は、山口幸洋（1959・1987・1996など）によって、静岡県や伊豆、埼玉など、一型アクセントの周辺部に多くみられることが知られている（山口幸洋（1996）では、「文節末下降」と呼ぶ）が、清水誠治（1997・2006など）によって、松山市安居島や愛媛県八幡濱市、宇和島市九島など愛媛県内にもみられる

ことを報告している。八幡浜市や宇和島市九島は、同じ愛媛県内であるものの、⑮魚島と地理的に離れているが、安居島は、⑮魚島と遠く離れていない。ただし、安居島も⑮魚島も、近接した島がなく、このような低接性は、自律的に起きたものと考えられる。

⑮魚島の2拍名詞の類別体系は、上野善道（1989）によれば、1・2（2型）/3（1型）/4・5（0型）とあるが、今回の調査で、新たに1・2・4・5（0型）/3（2型）であることが明らかになった。1・2/3/4・5という類別体系は、上野善道（1989）が述べるように、周囲の島々にはみられない特異な体系であるが、1・2・4・5/3という類別体系も周囲の島々にはみられない特異な体系である。

上野善道（1989）の報告と今回の調査結果が異なるのは、話者の生年の違いによるものである。上野善道（1989）の話者は、1911年生まれから1932年生まれ（主要話者2人の生年は1911年と1920年）で、今回の調査の話者（1949年生まれ）と年齢差が17歳～38歳ある（主要話者のうち、生年のおそい話者と比較すると、約30歳差ある）。このことから、⑮魚島において、2拍名詞の類別体系が、1・2/3/4・5から1・2・4・5/3へ変化した（第4・5類が第1・2類に統合した）ことがわかる。

個々の語について、上野善道（1989）の報告と比較したところ、一部例外があるものの、2拍名詞では、概ね上野善道（1989）の2型が今回の調査では0型に、上野善道（1989）の1型が今回の調査では2型に対応していた（上野善道（1989）の0型については、今回の調査でも0型で同じであった）。つまり、上野善道（1989）の2型が0型に、上野善道（1989）の1型が2型に変化したということである。もともと⑮魚島は、拍内上昇（1拍語のみ）や拍内下降が頻繁に出現するひじょうに複雑な音調であった。とくに、2拍名詞においては、2型と1型が、単独形では、同じ音調で区別がつかず、助詞接続の文節形でのみ区別がつく（2型は助詞「ガ」が拍内下降し、1型は助詞「ガ」が低接する）、ひじょうに聴き取りの難しい音調であった。しかも、1つの型に複数の音調型がある。このような不安定で、聴き取りの難しい状態を安定させようとして、自律的に変化が起きたと考えられる。

具体的には、2型では、助詞「ガ」の拍内下降が消失し（高い音となり）、0型と近似する音調になったことから、0型と統合した。1型では、助詞「ガ」の前の2拍目にある〈下げ核〉を維持しようとして、文節形の2拍目の拍内下降が消失した（高い音となった）。単独形では、2拍目の〈下げ核〉を明確にするために、1拍目に〈下げ核〉のある音調が消失した。以上のことから、2型・1型ともに、「拍内下降の消失」（高い音への変化）が起きたことがわかる。中井幸比古（1990・1991）・清水誠治（1997）がいう、「文節末核」の消失（回避）が起きたことになる<sup>17)</sup>。

「文節末核」の消失（回避）は、1・3拍名詞においても起きている。1拍名詞では、1型の文節形の拍内下降が消失したが、2拍名詞2型のように高い音とはなら

ず、〈下げ核〉を維持しようとして、第1拍目に〈下げ核〉のある型に統合した。さらに1拍名詞では、0型の拍内上昇も消失し、0型と1型の違いが明確になった（ただし、1拍名詞では、もともと0型と1型の2つの型しかなかったため、類別体系の変化は起きていない）。

3拍名詞では、「文節末核」の消失（回避）によって、上野善道（1989）の1型が2型に、上野善道（1989）の2型が3型に、上野善道（1989）の3型が0型に変化している。第7類が一部異なるところがあるが、これらの変化によって、3拍名詞の類別体系は、上野善道（1989）で報告されている1（1型～2型）/2（3型～2型）/4・5（1型）/6（0型）/7（3型）から、今回の調査結果の1（3型～2型）/2（3型～0型）/4・5（2型）/6（0型）/7（0型～2型）へ変化した。4つの型があった体系から、3つの型の体系へ変化したことになる。

#### 4. おわりに

以上、しまなみ海道域における愛媛県側の島嶼部でおこなった調査結果についてみてきた。今回の調査によって、「京阪式アクセント」（「中央式」）と「東京式アクセント」（「内輪式」「中央式」）の境界が、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と⑧伯方島・⑦鵜島の間、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と大三島（⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町）の間、②来島・③小島と⑥津島の間にあることが明らかになった。境界が、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と⑧伯方島・⑦鵜島の間、今治市大島（④大島吉海町・⑤大島宮窪町）と大三島（⑨大三島上浦町・⑩大三島大三島町）の間にあることについては、先行研究の報告と同じであったが、新たに境界が②来島・③小島と⑥津島の間にあることが明らかになった。地理的状況から、これまで「中央式」と思われていた⑥津島が、実際には「中央式」ではなく「東京式アクセント」（「中輪式」）であることが明らかになった。

さらに、今回の調査によって、先行研究で、2拍名詞の類別体系が周辺にはない特異な島として報告されていた⑱魚島に、類別体系の変化が起きていたこと、またその変化は、不安定な状態を安定させようとして起きた自律的な変化であることなども明らかになった。

今後、愛媛県側の島々について、さらに詳細な調査をおこなうとともに、未調査あるいは調査不足によってまだ実態がよくわかっていない島々への調査をおこない、しまなみ街道域のアクセントの全容を明らかにしたい。

## 注

- 1) 【図1】では、地理的關係を示すために、広島県に属する尾道市因島・生口島・豊田郡大崎上島・呉市大崎下島についても、地点名(島名)を記入している。ただし、本稿では、愛媛県の島嶼部を考察対象としているため、これら広島県の島は、本稿の考察対象外となる。
- 2) ①今治市については、秋山英治(2017)で報告した結果を用いる。
- 3) 「式」という用語については、「2拍名詞の類別体系を基準とした分類」と「句頭の高さおよび文節初頭からの方向性による特徴による分類」の両方を表すことがあり、ひじょうに紛らわしい。そこで、前者を「～式」、後者を〈～式〉と表し、表記上で区別する。
- 4) ③岡村島以西(広島県呉市大崎下島等)の広島県側の島については、調査をしていないため、厳密には「中央式」である①今治市との境界線を引くことができないが、神島武彦(2008)等の先行研究より、広島県側の島を「東京式アクセント」と判断し、境界を引いている。
- 5) 2岐島については、平成22年の国勢調査では、人口3人(1世帯)であったが、平成27年の国勢調査で人口が0人となり、現在無人島となっている。
- 6) 新居浜市東部は、「讃岐式」(2拍名詞1・3/2/4/5)であるが、【図2】で示したように、新居浜市大島は、飛び地的な「中央式」である(秋山英治(2016))。
- 7) 3拍名詞第3類については、上野善道(2006)が指摘するように、「所属語彙の少なさと、諸方言における対応関係がすっきりしないことから、論著によって立てたり立てなかったりしている」という問題があることから、本稿では、第3類は立てずに論じる。さらに、上野善道(2006)では、第2類についても、「所属語彙が少なく、対応に不確かな部分がある」という問題を指摘しているが、第3類と比較して研究者による違いが少ないことから、本稿では第2類を立てて論じる。
- 8) ⑦鶴島では、吉田健二・清水誠治(2015)の指摘にもあるように、「中央式」と「東京式アクセント」との中間的なところが確認される。詳細については、別稿に譲ることとする。
- 9) 馬瀬良雄(1994)によれば、広島市方言は「中輪式」となるようで、尾道市因島方言の「内輪式」と異なる。神島武彦(2008)では、広島市周辺部(神島武彦(2008)のいう「浅野藩域」と尾道市周辺部(神島武彦(2008)のいう「福山藩域」)に違いがあるとした上で、「1音節の単語をみると、「葉・名・日・藻」(名詞第2類の語)は、浅野藩域では○▶と発音される。これに対して、福山藩域では●▶と発音される」(○・▶は低、●・▶は高を表す)と述べている。
- 10) 松森晶子(1995)によれば、「讃岐式」諸方言(香川県詫間町、伊吹島、観音寺市、愛媛県川之江など)において、3拍名詞第5類が2つの型にわかれることを指摘している。また、平子達也・五十嵐陽介(2014)によれば、大分県杵築方言において、3拍名詞第5類が、音環境によって、2つの型にわかれることを指摘している。上野善道(2006)では、日本語諸方言アクセントの祖体系として、3拍名詞第5類を2つの型にわけており、祖体系の段階から複数の型があった可能性を指摘している。愛媛県島嶼部における3拍名詞第5類の分裂が、通時的にどのような意味を持つのかについては、今後の課題である。
- 11) 平子達也・桑畑遥・渡部彩乃(2019)では、広島市方言は馬瀬良雄(1994)に、東京方言は平山輝男(1960)に拠っている。
- 12) 平子達也(2017)によれば、鳥根県出雲地域諸方言で、3拍名詞第6類において0型以外に2型がみられることを指摘しているが、2型の語数が少なく、0型と2型で二分しているとはいえない。また、出雲地域諸方言で2型となる語と⑩大下島(さらに⑯魚島)で3型となる語に対応関係はない。⑩大下島(さらに⑯魚島)とは別の現象と考えられる。
- 13) A系列の音調(「○○|○」)となる語は、第1拍目に母音の無声化が起きる語が多い傾向があるが、「頭」など第1拍目に母音の無声化が起きない語にもA系列の音調がみられる。また、「単衣」など第1拍目に母音の無声化が起きる語で、B系列の音調(○「○|○」)となる語もあり、必ずしも音環境によるものとはいえない。〈式〉の対立があった時代の名残と考えられる。
- 14) ⑥津島の2拍名詞の単独形に拍内下降がみられることから、中井幸比古(1990)の分類では、「東京式f型」となる。しかし、3拍名詞については単独形を含め、文節形・短文形においても、拍内下降はほとんどみられず、中井幸比古(1991)の分類では、「東京式n型」となり、2拍名詞と3拍名詞とで異なり

がある。⑥津島と似た状況にある安居島では、清水誠治（1997）によれば、3拍名詞に拍内下降がみられる（「東京式 f 型」）ようである。清水誠治（1997）の話者が1907年生まれで、⑥津島の話者（1940年生まれ）の方が30歳以上の若いことから、拍内下降のない⑥津島（「東京式 n 型」）は、拍内下降のある安居島（「東京式 f 型」）より新しいように思える。しかし、中井幸比古（1990・1991）では、拍内下降があるタイプの方が新しいと考えている。この考えに従えば、拍内下降がほとんどみられない⑥津島（「東京式 n 型」）より安居島（「東京式 f 型」）の方が新しいことになる。

- 15) 生まれてから小学校まで⑥津島に在住していたものの、中学校以降、大島（⑥大島吉海町）へ移住したということから、慎重に判断する必要があるため、本稿では考察の対象としていないが、1958年生まれの⑥津島出身の話者は、2拍名詞が1（0型）/ 2・3・4・5（1型）で、「垂井式」の「A式」（中井幸比古（1990）の分類）である。中井幸比古（1990）によれば、拍内下降のない「東京式 n 型」から拍内下降のある「東京式 f 型」を経て、「A式」へ変化した（第2・3類の下降が、半拍ずつはやくなり、1型となったために、もともと1型であった第4・5類と統合した）ことを述べている。中井幸比古（1990）の第2・3類の変化に関する記述について、一部を抜粋して示すと、以下のようになる（用語・表記については、本稿の表記に変更している）。

東京式 n 型	→	東京式 f 型	→	A 式
単独形 「○○	→	「○○	→	「○ ○
文節形 「○○ ▽	→	「○○ ▽	→	「○ ○▽

「A式」の話者は、本稿で取りあげた話者より、20歳近く若いことから、中井幸比古（1990）が考えるような変化が、⑥津島で起きた可能性が高い。

なお、「A式」は、「中央式」の松山市においてもみられる（秋山英治（2017））が、松山市の「A式」は、中井幸比古（1990）が考えるような過程を経て生じたわけではない。松山市で「A式」がみられる話者以降において、種々の共通語化が起きていることから、松山市では共通語の影響（他律的要因）によって、「A式」が生じたと考えられる（秋山英治（2017））。松山市の変化については、中井幸比古（1990）が考えるような過程（「東京式 n 型」→「東京式 f 型」→「A式」）を経ておらず、「中央式」から一気に「A式」へ変化している。⑥津島も松山市も「中央式」から変化したという点では同じであるが、自律的な要因によって変化した⑥津島と、他律的要因（共通語の影響）によって変化した松山市とは変化の過程が異なる。

- 16) ⑩魚島では、2拍名詞の漢語・外来語が、基本的に1型となる。漢語には、第2拍目が特殊拍の語も多くあるが、第2拍目が特殊拍ではない語においても、その型は大半が1型である。外来語では、調査した2拍名詞73語すべてが、1型である。京都方言や共通語では、漢語・外来語は、特定の型（基本型）に偏る傾向があることが知られているが、⑩魚島においても、漢語・外来語が特定の型に偏る傾向が認められる。
- 17) ⑩魚島の1型は、「文節末核」の消失（回避）が起きるという変化に伴い、本来2型となるべき語で、特定の条件下（第2拍目が特殊拍）で生じたと考えられる。

## 引用文献

- 秋永一枝（1986a）「愛媛県魚島における老年層のアクセント 服部・金田一両博士に伺う」『月刊言語』15-10, pp. 84-87
- 秋永一枝（1986b）「魚島アクセントの変遷」『国文学研究』90, pp. 46-60
- 秋山英治（2016）「愛媛県新居浜市大島方言のアクセント」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』40, pp. 55-74
- 秋山英治（2017）『愛媛県東中予方言のアクセントと共通語のアクセント—日本語史再建のために—』おうふう
- 愛宕八郎康隆・神部宏泰・服部敬之・室山敏昭・佐藤虎男・岡野信子・白石寿文（1970）「伯方島アクセントは結局中国系か四国系か」『方言研究年報』11・12, pp. 159-188
- 上野善道（1985）「日本本土諸方言アクセントの系譜と分布(1)」『日本学士院紀要』40-3, pp. 214-250

- 上野善道 (1989) 「愛媛県魚島方言の名詞のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』17, pp. 59-80
- 上野善道 (1990) 「魚島方言の用言のアクセント」『東京大学言語学論集 '89』, pp. 53-117
- 上野善道 (2006) 「日本語アクセントの再建」『言語研究』130, pp. 1-42
- 神鳥武彦 (2008) 「I 総論」『日本のことばシリーズ34 広島県のことば』(明治書院), pp. 3-73
- 佐藤栄作 (2005) 「しなまみ架橋時代のアクセント 一伯方島のアクセントを中心に―」『しなまみ』架橋による地域方言の変化』(平成14年度～平成16年度 科学研究費補助金(基盤研究(C)(1))研究成果報告書), pp. 11-28
- 清水誠治 (1997) 「安居島方言アクセントについて」『日本語科学』2, pp. 7-23
- 清水誠治 (2006) 「宇和島市九島方言のアクセントについて: 調査報告内容のズレの理由と、変遷についての再考」『日本語の研究』2(2), pp. 46-60
- 清水誠治 (2010) 「愛媛にみるアクセントの多様性」『日本語研究の12章』(明治書院), pp. 429-443
- 中井幸比古 (1990) 「京都府における、いわゆる垂井式諸アクセントについて(1)」『国語研究』54, pp. 1-28
- 中井幸比古 (1991) 「京都府における、いわゆる垂井式諸アクセントについて(2)」『国語研究』55, pp. 1-20
- 平子達也・五十嵐陽介 (2014) 「大分県杵築方言の名詞アクセント資料とその歴史的考察」『京都大学言語学研究』33, pp. 197-228
- 平子達也 (2017) 「外輪式アクセントの歴史的な位置づけについて」『アジア・アフリカ言語文化研究』94, pp. 259-276
- 平山輝男 (1960) 『全国アクセント辞典』東京堂出版
- 馬瀬良雄 (1994) 『広島市方言アクセント辞典』中野出版企画
- 町博 光 (1979) 「生口島御寺(ミテラ)方言の語アクセント」『内海文化研究紀要』7, pp. 47-71
- 松森晶子 (1995) 「下降式アクセントとの由来と四国東北部諸方言の系統」『東京大学言語学論集』14, pp. 557-581
- 山口幸洋 (1959) 「静岡県入出方言とノ○○○=ㄱ/型アクセントについて」『音声学会会報』101, pp. 8-20
- 山口幸洋 (1985) 「東京式諸方言の文節アクセント体系」『国語学』142, pp. 23-38
- 山口幸洋 (1987) 「伊東市新井のアクセント」『音声学会会報』184, pp. 5-7
- 山口幸洋 (1996) 「方言アクセントにおける『文節末下降』について」『第10回日本音声学会全国大会予稿集』, pp. 41-46
- 吉田健二・清水誠治 (2015) 「四国北部および島嶼地域の方言アクセントの生態 その統計的特徴と歴史的変遷の推定」(『公益財団法人福武財団 アミューラレポート2015』)

## 附記

調査において、話者の方をはじめ、話者の方をご紹介くださった方など、多くの方にお世話になりました。個人情報の点から、お名前をあげることは控えますが、ご協力いただきました皆様にご心よりお礼申し上げます。

本研究は、JSPS 科研費「芸予諸島方言におけるアクセントの研究」(17K02733) の助成を受けたものです。

## 資料編

資料編として、末尾に、調査地点(①～⑱)別の1～4拍名詞のデータを示す。データは、拍数、類、語、読み、調査地点別の話者の型の順に示す。同地点で複数の話者がいる場合は、生年の早い順に、生年が同年の場合は、イニシャルの早い順に示す。

型の表記は、本稿の「2. 2. 調査方法・調査語彙」で示した表記(〈式〉)の対立がある地点では、〈平進式〉をH、〈低接上昇式〉をLとし、〈下げ核〉の有無・位置を数字で表す。〈式〉の対立のない地点では、〈下げ核〉の有無・位置を数字で表す)を用いる。その他、話者の疑問を「?」、筆者の疑問を「#」で表す。型が揺れている場合は、「1, 2」のように示す。

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
1	1	柄	エ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	1, 0	1
1	1	蚊	カ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	1	子	コ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
1	1	血	コ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	1	戸	チ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	1	ト	ト	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	1	帆	ホ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	1	0
1	2	ウ	ウ	HO	HO	-	H1	HO	HO	HO, H1	1	0
1	2	鵜	ウ	HO	HO	-	H1	HO	HO	H1, HO	0	0
1	2	名	ナ	H1	H1	H1	H1	HO	HO	H1, HO	0	0
1	2	葉	ハ	H1	H1	H1	H1	HO	HO	H1	1	0
1	2	日	ヒ	H1	H1	H1	H1	HO	HO	H1	1	1
1	2	藻	モ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	1	0
1	2	矢	ヤ	H1	H1	H1	H1	HO	HO	H1	1	0
1	3	絵	エ	LO	LO	LO	LO	LO	LO	LO, H1	1	1
1	3	木	キ	LO	LO	LO	LO	LO	LO	LO, H1	1	1, 0
1	3	酢	ス	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	田	タ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	手	テ	LO	LO	LO	LO	LO	LO	LO, H1	1	1
1	3	根	ネ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	火	ヒ	LO	H1, LO	LO	H1, LO	LO	LO	LO, H1	1	1
1	3	尻	ヘ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	穂	ホ	?HO	LO	-	LO	HO	HO	HO	1	0
1	3	目	メ	LO	#HO	LO	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	湯	ユ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	夜	ヨ	HO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	3	輪	ワ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1
1	X	毛	ケ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	X	巢	ス	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	X	背	セ	H1	H1	HO, H1	#H1, HO	HO	H1	H1, LO	1	1
1	X	歯	ハ	H1	H1	H1	H1	LO, H1	H1	H1	1	1
1	X	刃	ハ	H1	H1	H1	H1	H1, HO	H1	H1	1	1
1	Z	胃	イ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	1	0
1	Z	蛾	ガ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	1	0
1	Z	気	キ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	九	ク	#HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	苦	ク	HO	HO	-	?HO	HO	HO	HO	0	1, 0
1	Z	五	ゴ	HO	HO	-	?HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	碁	ゴ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	詩	シ	HO	HO	-	HO	LO	HO	HO	0	0
1	Z	痔	ジ	HO	HO	-	HO	LO	HO	HO	0	0
1	Z	地	ジ	LO	LO	-	?HO	LO	HO	HO	0	0
1	Z	字	ジ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	1	1, 0
1	Z	茶	チャ	LO	LO	LO	LO	LO	LO	LO	1, 0	0
1	Z	出	テ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	二	ニ	LO	LO	-	LO	LO	LO	LO	0	1
1	Z	分	ブ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	間	マ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	実	ミ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
1	Z	身	ミ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	飴	アメ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	鳥	トリ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	牛	ウシ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	梅	ウメ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	枝	エダ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	海	エビ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	老	エビ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	柿	カキ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	風	カゼ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	蟹	カニ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	金	カネ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0





秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	1	壁	カベ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	雉	キジ	H1	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	傷	キズ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	桐	キリ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	釘	キギ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	口	クチ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	首	クビ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	腰	コシ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	胡麻	ゴマ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	此	コレ	HO	?HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	酒	サカ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	皿	サラ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	皺	シワ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	杉	スギ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	底	ソコ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	袖	ソデ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	滝	タキ	HO	H1	-	H1	H1	H1	H1	0	2
2	1	竹	タケ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	棚	タナ	HO	HO	-	?LO	HO	HO	HO	0	0
2	1	誰	タレ	LO	LO	-	HO	HO	HO	LO	0	0
2	1	爪	ツメ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	どこ	トコロ	LO	LO	-	HO	HO	LO	LO	0	0
2	1	鳥	トリ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	西	ニシ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	蠅	ハエ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	箱	ハコ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	蜂	ハチ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	鼻	ハナ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	羽根	ハネ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	髭	ヒゲ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	膝	ヒザ	H1, HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	暇	ヒマ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	笛	フエ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	蓋	フタ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	筆	フデ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	星	ホシ	HO, H1	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	真似	マネ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	0	0
2	1	右	ミギ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	水	ミズ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	虫	ムシ	HO	HO	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	桃	モモ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	百合	ユリ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	横	ヨコ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	1	嫁	ヨメ	HO	HO	-	HO	HO	HO	HO	0	0
2	2	痣	アザ	H1	L2	-	L2	L0	L2	L2	1	2
2	2	鱒	アジ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	2	あれ	アレ	H1	H1	-	L0, H1	L2	L0, H1	H1	0	1
2	2	毬	イカ	L2	L2	-	L0	L0	L0	L0	0	0
2	2	石	イシ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	岩	イワ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	歌	ウタ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	音	ネ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	垣	カキ	H1	H1	-	H1	H1	#HO	H1	?2	1
2	2	型	カタ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	紙	カミ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1, 0
2	2	殻	カラ	L0	L0	H1	L2	L2	L0, H1	L2	0	2
2	2	川	カハ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	北	キタ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1, HO	0	2



秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	2	牙	キハ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1, 2
2	2	杭	クイ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2, 1	1
2	2	串	クツ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	2	鞍	クラ	H1	H1	-	H1	?H1	H1	H1	2	2
2	2	下	シモ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	蟬	セミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	旅	タビ	H1	?H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	2	為	タメ	H0	H0	-	H0	H0, H1	H0	H0	2	2
2	2	次	ツギ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2, 1
2	2	弦	ツル	H1	H1	-	?H1	?H1	H1	H1	2	1
2	2	梨	ナシ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	2	夏	ナツ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1, 2
2	2	虹	ニジ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	2	橋	ハシ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1, 2
2	2	旗	ハタ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	機	ハタ	H1	H1	-	#H0, H1	H1	H1	H1	2	?2
2	2	肘	ヒジ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	人	ヒト	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	昼	ヒル	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	2	冬	フユ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	2	町	マチ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	胸	ムネ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	村	ムラ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	雪	ユキ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	余所	ヨソ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	2	業	ウヂ	H1	H1	-	L2	H1	H1	H1	1	2
2	3	垢	アカ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1, 2
2	3	足	アシ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1, 2
2	3	穴	アナ	L0	L0	-	L0	L0	L0, H1	L0	2	2
2	3	網	アミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	池	イケ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	犬	イヌ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	芋	イモ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	色	イロ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	腕	ウデ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	馬	ウマ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	濃	ウメ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	3	裏	ウラ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	鬼	オニ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	親	オヤ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	3	貝	カイ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	3	鍵	カギ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	髪	カミ	H1	H1	-	H1	H1	H1, H0	H0	0	2
2	3	瓶	カマ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	3	皮	カバ	L2	L2	-	L2	L2	L2, H1	L2	2	2
2	3	茎	クサ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	草	クサ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H0	2	2
2	3	櫛	クシ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	3	靴	クツ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	3	熊	クマ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	3	雲	クモ	H1	H1	-	H1	L2	H1	H1	2	1
2	3	栗	クリ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	3	米	コメ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	坂	カサ	L2	L2	-	L2	L0	L2, H1	L2	2	2
2	3	塩	シホ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	島	シマ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	墨	スミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2



秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	3	谷	クニ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	タ	クニ	L0	L0	-	L2	L2	L2, H1	L0	0	1
2	3	月	ツキ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	綱	ツナ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	角	ツノ	H1	H1	-	H1, L2	H1	H1	H1	2	1
2	3	毒	ドク	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	年	トシ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	波	ナミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	蚤	ハミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	?L0	2	2
2	3	海苔	ワカメ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	恥	ハジ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	鉢	ハチ	H1	H1	-	H1, L2	H0, H1	H1	H1	1	0
2	3	花	ハナ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	腹	ハラ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	孫	マコ	L2	L2	-	L2	L2	L2	H1	2	1, 2
2	3	豆	マメ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
2	3	店	ミセ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	耳	ミミ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	姪	メイ	H0	H1	-	H1	H0	H0	H1	1	0
2	3	山	ヤマ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	指	ユビ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	夢	ユメ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	綿	ワタ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	3	鱈	ワニ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	4	跡	アト	L0	L0	-	L0	L2	L0	H1	1	1
2	4	息	イキ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	板	イタ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	0
2	4	何時	イツトキ	L0	L0	-	L0	-	L0	L0	#0	0
2	4	糸	イト	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	1	0
2	4	稻	イネ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	白	ウス	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	海	ウミ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0, H1	1	1
2	4	帯	オビ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	1	1, 2
2	4	傘	カサ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	数	カズ	-	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	肩	カタ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	角	カド	L2	L2	-	L2	L2	L0	L0	1	0, 1
2	4	鎌	カマ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	0, 1
2	4	杵	キネ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	今日	キョー	L2	L2	-	L0	L2	L0	L2	1	1
2	4	錐	キリ	L0	L0	-	?L2	H0	L0, H0	L0	1	0
2	4	屑	クズ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	管	クワ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	0
2	4	今朝	クナ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L0	1	1
2	4	桁	クバ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	0	0
2	4	下駄	ゲタ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	0	0
2	4	鞆	サヤ	H1	L0	-	L0	L2	L2	L0	?0	0
2	4	汁	シル	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	筋	シジ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	4	隅	スミ	L0	L0	-	L0	H1	L0	L0	1	0, 1
2	4	銭	ゼニ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	外	ソト	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	側	ソバ	L0	L0	-	L0	L2	L2	L0	1	1
2	4	空	ソラ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	種	タネ	L0	L0	-	L2	L0	L2	L0	1	1
2	4	杖	ツエ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	2	2
2	4	粒	ツブ	L0	L0	-	L0	L0	L2	L0	1	1



秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	4	苗	ナ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	1
2	4	カ	カ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	何	ナ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
2	4	鑿	バ	-	H1	-	H1, L2	L0	L0	?H1	1	?2
2	4	箸	ハ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	肌	ハ	H1	L0	-	L0	H1	L2	L0	2, 1	1
2	4	針	ハ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	1	0, 1
2	4	船	フネ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	紅	ベニ	L2	L0	-	L2	H1	L0	L0	1	1
2	4	篋	ヘラ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	0	2
2	4	他	オ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
2	4	松	マツ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	味噌	シ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	養	シ	H1	L0	-	L0	?H1, L2	L2	L0	1	1
2	4	麦	キ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	4	宿	ヤト	L0	L0	-	L0	L0	L2	L0	1	1
2	4	畏	ヲ	L0	L0	-	L0	L0	L2	L0	1	1
2	4	藁	ワラ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	1	1
2	5	藍	アイ	L2	H1	-	H1	H1	H1	#H0	1	1
2	5	青	アヲ	L2	L2	-	L2	L2, L0	L2	L2	1	1
2	5	赤	アカ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	秋	アキ	L2	L2	L2	L2	L2, L0	L2	L2	1	1
2	5	朝	アサ	L2	L2	L2	L2	L2, L0	L2	L2	1	1
2	5	汗	アセ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	兄	アニ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	1
2	5	蛇	アブ	#L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	雨	アメ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	鮎	アユ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	井戸	イダ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	1
2	5	桶	ウケ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	牡蠣	カキ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	蔭	カゲ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	蜘蛛	クモ	H1	?L2	-	?L2	?L2	L2	L2	1	1
2	5	黒	クロ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	鯉	コイ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	声	コエ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	?2
2	5	琴	コト	L2	H1, L2	-	H1, L2	H1	H1	H1	1	1
2	5	鮭	サケ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2, 1	1
2	5	猿	サル	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	白	シロ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	縦	タテ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	足袋	タビ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	常	ツネ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	露	ツユ	H0	H1	-	L2	L2	L2	L2	1	0
2	5	鶴	ツル	L2	L2	-	L2	L2	L2	H1, L2	2	1
2	5	鍋	ナベ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	鱧	ハモ	H1	L2	-	L2	H1, L2	H1, L2	H1	1	1
2	5	春	ハル	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	蛭	ヒル	H1	H1	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	鮎	フナ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	蛇	ヘビ	L2	L0	-	L0	L2	L2	L2	2, 0	1
2	5	前	マエ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	窓	マド	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	蔭	マコ	H1	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	0
2	5	婿	ムコ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	5	股	モモ	#H0	L0	-	#L0, H0	L2	L2	H1	1	1
2	X	今	イマ	L2	L0	-	?L2	L2	L2	L2	1	1





秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	X	上	ウ	H0	H0	-	H0	#L2	H0	H0	0	0
2	X	内	ウ	H1	H1	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	X	内沖	ウ	H0	H0, H1	-	H1	H1	H1, H0	H1	2	2
2	X	奥	ウ	L2	L0	-	L0	L2	L0	L2	1	1
2	X	亀	ウ	H1	H1	H1	H1	L2, H1	H1, L2	H1	2	1
2	X	鴨	ウ	H1	L2	H1	H1	H1, L2	H1	H1	2	1
2	X	こ	ウ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	2	0
2	X	下	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H1	0	0
2	X	そ	ウ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	0
2	X	蛸	ウ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1
2	X	鳩	ウ	H1	H1	H1	H1	H1, L2	H1	H1	2	1
2	X	本	ウ	-	L2	-	H1	L2	H1	H1	2	1, 2
2	X	夜	ウ	L2	L2	-	L0	L2	L2	L2	1	1
2	Z	顎	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2, 1	2
2	Z	味	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0, H1	H0	0	0
2	Z	仇	ウ	H1, H0	L2	-	L2	L2	H1	L2	2	2
2	Z	粗	ウ	H0, H1	H1	-	H1, L2	?L2	H1	H1, L2	?2, 1	2, 1
2	Z	以後	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	椅子	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	一	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	疣	ウ	L2	L2	-	H1	L0	L2	L2	1	-
2	Z	嘘	ウ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2, H1	2	1, 2
2	Z	う	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	運	ウ	L0	L0	-	H1, L0	L0	L0	L0	0	1
2	Z	過去	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	舵	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	火事	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	空	ウ	L0	L0	-	L2	L2	L2	L2	2	2
2	Z	岳	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	勘	ウ	L0	L0	-	?L0	L2	L0	L0	0	0, 1
2	Z	き	ウ	#H0, H1	?L2	-	?H1, L2	H0, H1	H1	H1	1	1
2	Z	規模	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	九	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	金	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	癖	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	癩	ウ	L2	#L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	Z	独楽	ウ	L0	L0	-	L0	?L2	L2	L0	?0	#2
2	Z	ゴム	ウ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	柵	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1, 2
2	Z	さ	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	三	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	鹿	ウ	H0	H1	-	H1	H1	H1	H1	0	0, 1
2	Z	事	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	故	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	紫蘇	ウ	L2	L0	-	L0	L0	H0	L0	0	0
2	Z	七	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	縞	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	Z	車庫	ウ	L0	H1	-	L0	L2	L2	L0	1	1
2	Z	軍鶏	ウ	H1	L2	-	H1	L0	H1	H1	1	1
2	Z	十	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	図画	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	0
2	Z	砂	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	スリ	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	席	ウ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	咳	ウ	H1	H1	-	?H0	?H1	H1	H1	1	1
2	Z	千	ウ	L2	H1	-	L0	L0	L0	L0	0	1
2	Z	象	ウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1

愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
2	2	2	#1	0	2	2	2	2	2	0	0
2	2	2	2	0	2	2	1	2	2	2	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	2, 1 ト、ソs1	1, 2	1	1	1	2, 1	1	2, 1	1	2
1, 2	1	2, 1	1, 2	1	1	1	1	1	1	1	2
2	2	2	2	2, 0	2	0	2, 0	2	2, 0	2	0
2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0
2	2	2	2	0	2	0	0	2	0	2	0
1	1	2	1, 2	1	2	1	1	1	2	1	2
2	1	1	?1, 2	1	2	1	1	1	2, 1	1	2
2	2	2	2	1	2	1	1	2	0	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	2	2	2	2	2	2	#0	2	0	2	2
0	0	#2	0	0	0	0	0	?0, 2	0	?2	-
2	2	2	2	2	2	2	1	2	2, 1	2	2
1	2	1	?0	1	2	2	1	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	2	1	2	1	2	1	1	2	2	1, 2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	2	1	0	2	2	1	2	2	0	1	?1
2	1	2	2	1	2	2	2	1	2	1	2
2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	1, 2	0
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	0	1	0, 1	?1, 0	1	0	0	?0	0	0	1
?1	1	1	1	1	1	?0	0, 1	?1	1	?1, 2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	?1
2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	0
1	1	1	1	1	1	?1, 2	1	1	2	1	0
1	2	1	1	0	0	1	1	0, 1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
2	2	2	2	2	2	2	2, 1	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	?1	1	1	2
0	0	?1	1	0	1	1	1, 0	1	0	0	0
2	2	2	2	2	2	0	1	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	2	0	0	?0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
ヒフ		ヒフ	ヒフ	ヒフ	ヒフ	ヒフ	ヒフ				ハ
2	2	2	2	2	2	2	2	2	?2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	?1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	?2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	0, 1	1	0	1	1	1, 0	2
0	1	2	2	0	?0, 1	0	0	?2	?2	1, 0	2
2	2	2	?0	1, 0	?0, 1	?0, 1	1	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	Z	蕎麦	ソバ	L0	L0	-	L0	L0	L2	L0	1	1
2	Z	凧	カ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	只	カ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	0, 1
2	Z	ダニ	ダニ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	束	カ	L0	L0	-	L0	L0	L2	L0	1	1
2	Z	鱈	タラ	H1	L2	-	L2	L2	H1	L0	2	0, 1
2	Z	樽	タル	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	0, 1
2	Z	段	ダン	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	知恵	チエ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	Z	地図	チズ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1
2	Z	蔓	ツル	H1	H1	-	H1	L2	L2	H1, L2	1	1
2	Z	鉄	テツ	H1	H1	-	H1	H1	H1, L2	H1	1	1
2	Z	出目	デメ	L2	H1	-	L2	L2	H1, L2	H1	2	2
2	Z	寺	テラ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	Z	天	テン	H1	H1	-	H1	H1	L0, H1	H1	1	1
2	Z	土砂	トシヤ	H1	H1	-	H1	L0, H1	L2	H1	1	1
2	Z	土手	トテ	L2	L2	-	L2	L0	L2	L2	1	2
2	Z	ドブ	ドブ	L2	L2	-	L2	L0	L2	L2	2	0
2	Z	どれ	ドレ	#H1, H0	?L0	-	L0	H1, L0	L0	H0	0	0
2	Z	猶	ナ	#H1	H1	-	H1	-	L0, H1	H1	1	0, 1
2	Z	謎	ナゾ	L2	L2	-	L2	L2	H0	L0	1	0
2	Z	生	ナマ	L0	L0	-	L0	L2	L2	L0	1	1
2	Z	奈良	ナラ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	肉	ニク	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	Z	萼	ニラ	L2	?H0	-	H1	H1	H1	H1	1	0
2	Z	二羽	ニウ	L0	L0	-	L0	L2	L0, H1	L0	1	1
2	Z	葱	ネギ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	熟	ネツ	H1	H0	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	Z	沼	ヌマ	H1	H0	-	L0	H1	H1, L0	H0	2	-
2	Z	猫	ネコ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	1
2	Z	喉	ノド	L0	L0	-	L0	L2	L2	H0	1	1
2	Z	糊	ノリ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	0
2	Z	馬鹿	バカ	L0	L0	-	L0	L2	L0	L0	2, 0	1
2	Z	禿げ	ハゲ	L2	L2	-	L2	L2	L2	H1, L2	1	1
2	Z	馬車	バシヤ	L2	L2	L2	H1	H1	H1	L2	1	1
2	Z	バス	バス	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	八	ハチ	H1	H1	-	H1	H0, H1	H1	H1	1	1
2	Z	罰	バチ	H1	L0	-	H1	H0	H1	H1	2, 1	0, 1
2	Z	晩	バン	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	?0	0
2	Z	番	バン	H1	H1	-	H1	?L2	H1	H1	1	1
2	Z	パン	パン	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	襷	ヒタ	L2	H1	-	L0	L0	L0	H0	0	0
2	Z	雛	ヒナ	L2	L2	-	L2	L2	L2, H1	L2	1	1
2	Z	百	ヒヤク	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
2	Z	平	ヒラ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	0, 1
2	Z	ピラ	ピラ	H1	L2	-	H1	L2	L2	L2	1	0
2	Z	枇杷	ビワ	H0, H1	H0	-	H0	H0, L2	H0	H0	0	0
2	Z	ピン	ピン	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	服	フク	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	豚	ブタ	L2	L2	-	L2	L0	L2	L2	1	0
2	Z	ブナ	ブナ	H1	H1	-	L2	L0	L0, H1	?H1, L2	1	1
2	Z	鱒	ブリ	#H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	0
2	Z	風呂	フロ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	0, 1
2	Z	塀	ヘイ	H1, H0	H1	-	H1	H0	H0	H1	0	1
2	Z	変	ヘン	L2	L2	-	H1, L2	L2	L2	L0	?2	1
2	Z	棒	ボー	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	骨	ボネ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	0, 1
2	Z	ほぼ	ホボ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1

愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	2	2	2	2	2	1	1	?2, 1	2	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2	2	1	2	1	2	2	1	1	2	2	0
1	1	1	1, 2	1	1	1	1	2	1	1	2
2	2	2	0	0	2	2	1	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1, 2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	0
1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2
1	1	?2	2	2	1	2	1	1	2	2	2
2	?2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2
2	2	1	2	0	0	0	1	0	2	2	0
2, 1	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	0
?0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	?2, 0
1	1	0, 1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	0	1, 2	0	0	0	1	0	1	0	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
2	0	2	2	0	2	0	0	1	2	2	2
1	1	1	0, 1	1	1	1	0, 1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2
2	2	2	2	0	2	0	2	2	0	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	0	1, 0	0	1	0	0	1	1	?2, 0
2	2	2	2	2	?2, 1	2	0	2	2	2	2
0	0	?0	#1	0	?0	0	0	0	0	0	0
1	1	#0	1	1	?0	1	1	1	1	?1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	0	1	1	?0	1	1, 0	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	0	1	1	1	1	0, 1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2
1, 0	1	1	?2	0	1	1	1	0	1	1, 0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	0	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	0	0	0	0	0	0	1, 0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
?1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
2	Z	ぼや	ボヤ	L2	H1	-	L2	H1, L2	H1, L2	?L2	1	?1
2	Z	捕虜	ホリヨ	L0	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	?1
2	Z	ぼろ	ボロ	L2	L2	-	L2	H1	L2	L2	1	1
2	Z	本	ホン	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	盆	ボン	L0	H0	-	H0	L0	L0	L0	0	1
2	Z	鱈	マス	H1	H0	-	L2	L2	L2, H1	H1	1, 0	0
2	Z	まだ	マダ	L0	L0	-	L2	L2	L0	L0	1	0
2	Z	万	マン	L0	H1	-	H1	H1, L2	L0	L0	0	?1
2	Z	溝	ミヅ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	蜜	ミツ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	無茶	ムチャ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L0	1	1
2	Z	もし	モン	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	百舌	モズ	H1	H1	-	L2	L2	?H1	L2, H1	1	1
2	Z	餅	モチ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
2	Z	門	モン	H1	H1	-	H1	H1	L0, H1	H1	1	1
2	Z	山羊	ヤギ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	自棄	ヤク	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
2	Z	痩せ	ヤセ	L2	L2	-	L2	L2	L2, H0	L2	0	2
2	Z	屋根	ヤネ	L0	L0	-	L0	L0	L2	L2	1	1
2	Z	ややや	ヤヤ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	湯気	ユク	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
2	Z	酔い	ヨイ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	2
2	Z	用	ヨウ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	理科	リカ	H1	H1	-	H1, L2	H1	H1	H1	1	1
2	Z	蠟	ロー	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	六	ロク	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	驢馬	ロバ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
2	Z	和歌	ワカ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
3	1	田舎	イカ	H0	H0	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	鰯	イシ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	うがい	ウガイ	H0	H0	-	HO	HO	H1	HO	0	0
3	1	漆	ウルシ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	踊り	オトリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	飾り	カザリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	形	カタチ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	鯉	カツオ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	着物	キモノ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	鎖	クサリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	車	クルマ	H0	H0	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	煙	クマリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	氷	コオリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	今年	コトシ	H0	H0	-	HO	HO	HO	H3	3	0
3	1	子供	コトモ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	魚	サカナ	H0	H0	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	桜	サクラ	H0	H0	HO	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	障子	ジョウシ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	印	シルシ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	相撲	スモ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	畳	タタミ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	序で	ツイデ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	机	ツクエ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	隣	トナリ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	名前	ナマエ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	寝言	ネゴト	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	始め	ハジメ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	鼻血	ハナジ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	羊	ヒツジ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0
3	1	二日	フツカ	H0	H0	-	HO	HO	HO	HO	0	0



秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
3	1	埃	ホリ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	味方	ミカタ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	三日	ミツカ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	港	ミナト	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	昔	ムカシ	L3	L3	L3	L3	L3	L3	L3	3	0
3	1	息子	ムスコ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	柳	ヤナギ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	1	涎	ヨダレ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	2	小豆	アズキ	L2	L2, H1	H2	H2, H1	H2	H1	H2	2, 1	2
3	2	女	オンナ	H1	H1	H1	H1	H2, H1	H2	H2, H1	2, 1	3
3	2	毛抜き	ケヌキ	L2	H2	H2	H2	H2	H2	H2	3	0
3	2	東	ヒガシ	H1	H1	-	H1	H1	H1, H2	H1	2	2
3	2	二重	フタヘ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	2	二つ	フタツ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	2	二人	フタリ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	2	三つ	ミツツ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	3	3, 1
3	2	娘	ムスメ	H1	H2	H2	H2, H1	H2	H1	H1	3	3
3	2	夕べ	ユーベ	L3, L0	L3	L3	L3	L3	L3	L3	3, 1	3
3	4	明日	アシタ	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	3	3
3	4	頭	アタマ	H2, H1	H2	H1	H2	H2	H2	H2	2, 3	2
3	4	団扇	ウチリ	L2	L2	-	H2	H2	H2	H2	3	2
3	4	男	オトコ	H1, H2	H1	H2	H2	H2	H2	H2	2	2
3	4	表	オモテ	H2	H2	-	H2	H2	H2	H2	2	3F, 3
3	4	鏡	カガミ	L2	L2	-	H2	H2	H2	H2	0	2
3	4	敵	カキ	H1	?H2	H1	H2, H1	H2	H2	L2	-	2
3	4	刀	カナ	L2	H2	-	H2	H2	H2	L2	2	3, 2
3	4	鉋	カンナ	H1	H1	-	H1	H1	H1, H2	H1	3	3
3	4	昨日	キノ	H1	H1	-	H1	H1	H1	L2	2	2
3	4	言葉	コトバ	H1	H2	H1	H2	H2	H2, H1	H2, H1	0, 2	1, 2
3	4	曆	コヨミ	L2	H2	-	H2	H2	H1	H2	2	2
3	4	境	サカイ	H1	H1	-	H1	H2	H1	H1	2	1
3	4	白髪	シラガ	L2	H2	-	L2	L2	L0	L2	2, 1	0, 2
3	4	硯	スズリ	L2	H2	-	H2	H2	H1	H2	2	2
3	4	宝	タカラ	H1	H2	-	H1	H2	H1	H2	2	2
3	4	助け	タスケ	H1	H1	-	H1	H1	H0, H1	H1	2	3F, 3
3	4	谷間	タニマ	H0	H0	-	H0	H2	H0	H0	0	3
3	4	頼み	タノミ	L2	H2	-	H2	H0, H2	H1	H2	2	2
3	4	俵	タラ	H1	H1	-	L0	H1	H0	H1	2	2, 1
3	4	包み	ツツミ	L2	H2	-	H2	L2	H1	H2	2	2
3	4	鯰	ナマス	H1	H1	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	4	匂い	ニオイ	H2	H2	-	#L2	L2	L2	H2	2	2
3	4	縫い目	ヌイメ	H2	H2	-	H2	H2	H1	H2	3	3
3	4	鉄	ハサミ	L2	H2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	4	林	ハヤシ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	4	光	ヒカリ	H1	H2	-	H2	H1	H1	H1	2	2
3	4	袋	フクロ	L2	L2	H2	H2	H2	H2	H2	0	2
3	4	襖	フスマ	L2	H2	-	H0	H0	H2	H0	0	2
3	4	箆	ムシロ	L2	H2	-	H2	H2	H1	H1	0	0
3	5	朝日	アサヒ	H1	H1	H1	H1	H1	H2	H1	0	1
3	5	油	アブラ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	0	0
3	5	鮑	アブリ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	2
3	5	衰れ	アワレ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
3	5	五つ	イツツ	#H1	H1	-	H2	H2	H1	H1	1	2
3	5	従兄弟	イトコ	H1	L2, H1	-	H1	H1	L2, H1	H1	2, 1	2
3	5	命	イナチ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1
3	5	親子	オヤコ	H1	H1	-	L0	L0	L0	L0	2	1



愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0, 3, 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
2	3	2	3	3	3	2	3	3	3	3	0
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1
2	3	0	3	3	0, 3	0	3	3, 0	0	0	0
3	3	3	0	0	3	0	0	3	0	3	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2, 3	2	2	2
3	3	2, 3	3	3	3	3	3	2, 3	3	3	0
		フターツ4も									
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
1	1	1	3	3	1	3	1	3	1	1	3
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
0	3, 0	0, 3	3	3	1	3, 0	1	3	3	0, 1	3
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
3	3, 2	3	3	3, 2	3	3	3	3	3	3	2
3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	0	3	3	3	3	2	3	3	3	2
3	2, 1	3	3	3	3	3	3	1, 3	3	3	2
2	2	2	2	3, 2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3, 2	3	3	2, 3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	0	3	3	3	3	3	3	2
2	2	3	3	3	?3, 1	3, 3	1, 3	1	?2	2	2
2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	3
3	3	3	3	3	3	3	1, 3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	1	0	0	3	3	3
					ター						
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
0	0	0	#3	0	3	0	0	0	0	0	0
2	2	2	3	3	2	2	2, 3	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
3	3	0	3	0	3	3	0	0	3	0	0
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3, 2	3	3	3	3	3, 2	3	3	2
2, 3	3	3	3	3	3	3	3	0	2	3	2
3	2	3	3	3	3	3	0	3	3	3	2
1	1	1	1	2	2	1	2	1, 2	1	1, 2	2
3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	2
2, 1	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2
1	1	1	2	2	2	1	2, 1	1	2	1	2
2	2	2	2	2	2	2	2, 1	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3, 0
1	1	1	2, 1	1	2	1	2	1, 2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
3	5	神楽	カガラ	H1	H1	-	H2, H1	H1, L2	H1	H1	0	0
3	5	鱧	カレ	L2	L2	-	L2	L2	H1	H1	2	2
			カレイ	カレイ	カレイ		カレイ	カレイ	カレイ	カレイ	カレイ	カレイ
3	5	胡瓜	キューリ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
3	5	心	ココロ	H1	H2, H1	H1	H2	H2	H2	H1	2	0, 2
3	5	柘榴	ザクロ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	1	2
3	5	姿	スカタ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
3	5	簾	スタレ	L2	H1	-	H1	H0	H1	L2	0	0
3	5	襷	タスキ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	0
3	5	情け	ナサケ	H1	H2	-	L2	L0	H2	H2	2	1
3	5	涙	ナミダ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	1	1, 2
3	5	柱	ハシラ	L2	H2	-	L2	L2	L2	L2	0, 3	2
3	5	単衣	ヒトエ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	5	火箸	ヒバシ	L2	L2	-	L2	L2	L0	L2	2	2
3	5	箒	ホーキ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
3	5	枕	マクラ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	0	2
3	5	紅葉	モミジ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2	1
3	5	山葵	ワサビ	H1	H1	-	H1	H1	H2	H1	2	2
3	6	菖蒲	アヤメ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	兔	ウサギ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	鰻	ウナギ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	大人	オトナ	L0	L0	-	L2	L0	L0	L0	0	0
3	6	鷗	カモメ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	狐	キツネ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	虱	シラミ	L0	L0	-	L0	L0	H0	L2, L0	0	0, 2
3	6	すすき	ススキ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	雀	スズメ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	李	スモモ	L0	L2	-	L0	L0	L2	L2	2	2
3	6	背中	セナカ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	6	高さ	タカサ	L0	L0, H1	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	団子	ダンゴ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	田圃	タノホ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	燕	ツバメ	L2	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	長さ	ナカサ	H1	L0	-	L0	L0	L0	L0	2	1
3	6	鼠	ネズミ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	裸	ハダカ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	裸足	ハダシ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	左	ヒダリ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	雲雀	ヒバリ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	広さ	ヒロサ	L0	H1	-	L0	L0, L2	L0	L0	0	1
3	6	みみず	ミズズ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	6	蓬	ヨモギ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
3	7	莓	イチゴ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	1, 2, 3	0
3	7	後ろ	ウシロ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	2	1, 2
3	7	蚕	カイコ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	3	1
3	7	兜	カブト	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	2	1
3	7	辛子	カラシ	L2	H1	-	L2	L2	L2	L2	2	0
3	7	鯨	クジラ	L2	L2	-	H1	L2	H1	H1	1	0
3	7	葉	クスリ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	0	2
3	7	卵	タマゴ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2	1	2
3	7	便り	タヨリ	L2	L2	-	L2	L2	H1, L2	L2	2	1
3	7	盥	クワイ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	0	2
3	7	椿	ツバキ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	7	鉛	ナマリ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	0	2
3	7	畑	ハタケ	L0	L0	L0	L0	L0	L0	L0	0	0
3	7	一つ	ヒトツ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	7	一人	ヒトリ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	7	緑	キナンド	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2

愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
1	1	1	1	1	0	0	2	1	3	2	2
2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2
カイ		カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
3	3	2,3	2	3,2	2	3	2	3,2	2	3	1
3	1	2	2	3	1	1	0	3	2	3	3
1	1	2	2	2	1	1	3	1	2	2	2
1,3	3	2,3	3	3	3	3	3	3	0	0	0
3	3	2,0	3	3	0	3	3	0	3	3	0
3	1	1	2,3	3	3	3	3	1	3	3	3
1,3	1	1	2,3	0	2,1,3	1	2,0	2	2	2	2
3	0	0	3	3	3	3	3	3	0	0	0
2	2	2	2	0	3	2	2,3	2	2	2	2
2	2	2,3	1	1	2	2	0	2	2	2	-
1	1	1	3	3,1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	3	3	3	0	1	0	0	0	0	0
2,1	1	1	2	2,1	2,1	1	2	1	2	2	2
2	1	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2
0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	2	3	2	0	0	0	0	0	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	3	0	3	0	?3	3	0	0	0	0	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	2	0	0	2	2	0	2	2	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	2
1	1	1	3	3	1	1	0	1	1	0	0
0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	0	3	1	1	0	1	1	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
2,0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1,2	1	0	1,0	1	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0
2	0	0	0	2,3	1	3	0	0	0	0	0
1	0	1	1	3	1	1	1	1	1	1	0
0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2	1	1	2,3	3	1	3	0	1	1	2	0
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
2,1	1	1	1,3	1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
2	1	2	2	1	1,2	2	1,2	1	1	1	2

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
3	7	病	ヤマイ	H1	H1	-	L2	H1	H1	H1	2	1
3	X	間	アダ	H0	H0	H0	H0	H0	H0	H0	0	0
3	X	欠伸	アケビ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	X	嵐	アらし	H1	H1	-	L2	H1	H1	H1	2	1
3	X	柏	カシワ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	3	2
3	X	鳥	カラス	L0	H1	L0	L0	L0	L0	L0	2, 1	1, 0
3	X	栄螺	ササエ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	1
3	X	狸	タヌキ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2, H1	2	2
3	X	力	チカラ	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	1	1
3	X	翼	ツバサ	L2	L0	-	L0	-	L0	L2	0	0
3	X	釣瓶	ツルべ	L2	L2	-	L2	L2	H2, H1	L2	3	1
3	X	蜥蜴	トカゲ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	X	仲間	ナカマ	L2	H2	H2	H2	H2	H1	H2, H1	3, 2	2
3	X	斜め	ナメ	H0	H2	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	X	二十歳	ハツチ	H1	H1	H1	H1	H1	H2	H1	2	1
3	X	麓	フミト	H1	H2	-	H2	H1	H0	H0	2	1
3	X	蛭	ホタル	H1	H1	H1	H1	H1	H1	H1	2, 1	1
3	X	御輿	ミコシ	L2	H2	-	L2	H2	L2	H1	2	2
3	X	南	ミナミ	H1, H0	H1	-	H0	H1	H1	H0	0	1
3	X	向こう	ムコウ	H1	H1	-	H1	L0	H0	H0	2	0, 2
3	X	盲	メクラ	L3	L3	-	L2	L0	L2	L3	3	3
3	X	草鞋	ワラジ	L2	L0	-	L0	L0	L0	H0	0	0
3	X	蕨	ワラビ	H1	H1	-	H1	L2	H2	H1	2	1
3	Z	通草	アケビ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	Z	えくぼ	エカボ	L2	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
3	Z	榎	エノキ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	2	1
3	Z	垣根	カキネ	L2	H2	-	H2	H2	L2	H0	3	2
3	Z	瓦	カワ	L0	H1	H1	L0	L0, L2	L0	H1	0, 3	1, 0
3	Z	楔	クサビ	H0	H0	-	H0	H0	H0	L2	0	0
3	Z	毛虫	ケムシ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	H0	2	2, 0
3	Z	獣	ケモノ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	Z	黄金	コウネ	H0	H0	H0	H0	H0	H0	H0	0	0
3	Z	梢	コスエ	?L0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	Z	木霊	コトマ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
3	Z	牛蒡	ゴボウ	H0	H0	-	L2	H0	H0	H0	0	0
3	Z	小道	コミチ	H1	H1	-	H0	H0	H0	H0	2	0
3	Z	小麦	コムギ	H0	H1	H2	H2	H2	H1, H2	H2	2	0
3	Z	蠍	サソリ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	Z	實の子	ミノコ	H1	H1	-	H1	L2	H0	L2	1	1
3	Z	蕎麦屋	ソバヤ	L2	L2	-	L0	L0	L0	L2	2	2
3	Z	扉	トビラ	L2	L2	L2	L2	L2, L0	L0	L0	0	0
3	Z	ノッポ	ノッポ	L3	H1	-	L0	L0	L3	H1, L3	1	1
3	Z	睫毛	マツゲ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
3	Z	マッチ	マッチ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
3	Z	蜜柑	ミカン	L2	L2	L2	L2	L2, H1	L2	L2	2	2
3	Z	岬	ミサキ	L0	H0	H1	L0	H0	H0	H0	0	0
3	Z	皆	ミンナ	L2	L2	L2	L2	L2	L2	L2, HL3	2, 3	2, 3
3	Z	林檎	リンゴ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	0	1
3	Z	若芽	ワカメ	L2	H1	-	L2	L2	H1	H1	2	1, 1
4	Z	合い鍵	アイカギ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	朝顔	アサガオ	H1	H1	-	#H2	H2	L2	H1	2	2
4	Z	足音	アシオト	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	3	3
4	Z	甘酒	アマザケ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
4	Z	編み物	アミモノ	H2	H2	-	H3	H2	H3	H3	3, 2	2
4	Z	雨降り	アメフリ	L3	L3	-	L3	L3	L3	L2	2	2
4	Z	猪	イノシシ	H1	H1	-	H1	H1	H2	H1	2	2
4	Z	鶯	ウグイス	H1	H1	-	H2	H2	H2	H2	2	2

愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
1	1	1	1	1,3	3	1	1	1	?1,0	1,0	2
0	2	2	2,3	2	2	?2	0,2	3	2	2	0
0,1	1	1	0,1	1	1	1	0	0	1	1	0
2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2
2	1,2	2,1	2,1	2,1	2	2	1	2	1	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3
0	0	0	0	0	0,1	0	0	0	2	0	0
3	3	0	0	3	1	3	0	3	3	3	0
0	3	2	0	3	3	3	0	3	3	3	0
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2
1	1	1	2	1,2	2	1	2	1	2	2	3
3	3	3	0	3	3	3	3	3	0	3	2
1	1	1	1,2	1	1	1	1	1	1	1	2
2	2	2	2	2,3	2	2	0	2	2	2	2
3	3	1	3	1,3	2	0	0	1,3	1	0	3
2	2	2	2	2	2	2	0,2	2	2	2	2
3	3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	2
0	0	0	0,1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	1,2	1	2	1	0	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
0	2	1	1	1	0	1	1	1,3	2	2	2
2,0	2	2	3	2	3	2	3	2	2	2	2
1	1	1	0,1	3,0	1	0,1	0,1	0	1	0	3
カー					カー						
0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	2,0	0,3	0,3	0	0,2	0	2	0	0,2	3,0
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0,3	0	0	0	0	0	0	3
0	0	3	2,0	0	?0	0	0	0	0	0	0
0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2	2	2	2	0	2	0	0	2	2	2	2
2	2	2	0,3	0	2	0	2	2	2	2	3
0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	3	0
2	2	2	1	0	?0	1	0	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
0	0	0	0	0,3	0	0	0	0	0	0	2
1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2,1	1	1,2	2,1	2,1	2	2	2
0	0	0	0	3	3	0	3,0	0	0	0,2	3,0
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
0	1	1,3	1	3	0	1,0	0	0	0	1	1
2	2	2	2	2	1	1	1,2	2	2	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
3,4	3	3	3	3	4	3	3	4	4	3	3
3	3	2	0	2	0	3	3	3	3	3	3
3	2	3	2	2	4	3	3	2,3	2	3	2
4	2	4	0	2	4	2	2	2	2	2	2
2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

秋 山 英 治

拍	類	語	読み	①今治市	①今治市	②来島	②来島	③小島	④吉海町	⑤宮窪町	⑥津島	⑦鶴島
				N・S氏 (1943m)	N・T氏 (1943f)	Y・K氏 (1936m)	K・M氏 (1944m)	Y・T氏 (1946m)	I・S氏 (1956m)	M・M氏 (1944m)	F・N氏 (1940m)	O・A氏 (1956m)
4	Z	渦巻き	ウスマキ	H3	H3	-	H3	H3	H2	H3	3	2
4	Z	梅干し	ウメボシ	H0	H3	-	H0	H0	H0	H3	0	0
4	Z	弟	オト	L2	H3	-	H1	H1	H0	H0	0	3, 0
4	Z	音楽	オノガク	H1	H1	-	H0	H0	H1	H1	1	2
4	Z	金持ち	カネチ	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	2	3
4	Z	蠨螂	カマキリ	L3	L3	-	L3	L3	L3	L3	2	3
4	Z	剃刀	カミソリ	L3	L3	-	H3	H3	H3	H3	3	3
4	Z	雷	カミナリ	H0	H0	-	H0	H3	H0	H0	0	0
4	Z	唐傘	カサ	H3	H3	-	H3	H3, H2	H0	H3	2	0
4	Z	ガラス戸	ガラスド	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	4	3
4	Z	記念日	キネンヒ	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	3	2
4	Z	兄弟	キョウテイ	L3	L3	-	L3	L2, L3	L3	L2	1	1
4	Z	葉屋	クスリヤ	L0	L3	-	L0	L0	L3, L0	L3	0	0
4	Z	口笛	クチフエ	L3	H3	-	H3	H3	H0	H3	3	0
4	Z	黒んぼ	クロンボ	L2	L2	-	L2	L4	L0	L0	2	2
4	Z	蝙蝠	コウモリ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
4	Z	秋桜	コスモス	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
4	Z	小麦粉	コムギコ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	蒟蒻	コンニャク	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	0	3
4	Z	坂道	サカヂ	H2	H2	-	L2	H3, H2	L2	L2	2	2
4	Z	座布団	ザブトン	L0	L2	-	L0	L2, L3	L3	L3	3, 2	2
4	Z	三月	サンガツ	H1	H1	-	H2, L2	L2	H2	L2	3	1
4	Z	椎茸	シイタケ	H1	H1	-	H1	H1	H1	H1	1	1
4	Z	正月	ショウガツ	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	1	3
4	Z	スリッパ	スリッパ	L2	L2	-	L2	L2	L2	L2	2	2
4	Z	先生	センセイ	H1, H0	H2	-	H0	H0	H3	H3	3, 1	3
4	Z	洗濯	センタク	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	玉葱	タマネギ	L3	L3	-	L3	L3	L0	L3	0	3
4	Z	手袋	テブクロ	L0, L3	L3	-	L3	L3	L3	L3	2	0
4	Z	友達	トモダチ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	土曜	ドヨーヒ	L3	L2	-	L3	L3	L2	L3	2	2
4	Z	縄跳び	ナットビ	L3	L3	-	L3	L3	L3	L3	3	3
4	Z	鶏	ニトリ	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
4	Z	人参	ニンジン	L0	L0	-	L0	L0	L0	L0	0	0
4	Z	蛤	ハマグリ	L3	H2	-	L3	L3	L3, L2	H1, H2	2	2
4	Z	歯磨き	ハミガキ	H1	H2	-	H1	H2	H2	H1	2	2
4	Z	針金	ハリガネ	L0	L0	-	#H0	H0	L0	L0	0	0
4	Z	引越	ヒッコシ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	鼻	フクロ	L3	L2	-	L3	?L3	L3	L3	3	2
4	Z	松茸	マツタケ	L3	L0	-	L0	L0	L3	L0	0	0
4	Z	右側	ミギガワ	H0	H0	-	H0	H0	H0	H0	0	0
4	Z	蜜蜂	ミツバチ	L2	H2	-	L2	H2	L3, L2	H2	2	2
4	Z	紫	ムラサキ	L2	H2	-	L2	L2	L2	L3, L2	2	2
4	Z	餅つき	モチツキ	H3	H3	-	H2	H3	H3	H3	3	3
4	Z	物置	モノオリ	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	3	3
4	Z	来月	ライゲツ	L2	L2	-	L2	L2	L3, L2	L2	3	1
4	Z	蠟燭	ロウソク	H3	H3	-	H3	H3	H3	H3	0	3

愛媛県島嶼部方言のアクセント

⑧伯方島 A・S氏 (1949m)	⑨上浦町 K・A氏 (1958f)	⑩大三島町 K・T氏 (1948m)	⑪大下島 I・K氏 (1948m)	⑫大下島 T・E氏 (1948m)	⑬小大下島 H・A氏 (1941m)	⑭岡村島 B・J氏 (1956m)	⑮岩城島 T・N氏 (1943f)	⑯佐島 K・K氏 (1954f)	⑰生名島 H・Y氏 (1948m)	⑱弓削島 K・M氏 (1948m)	⑳魚島 N・K氏 (1949m)
2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
4	4	4	4	4	4	0	0	4	4	4	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	3, 1
3	3	3	3	3	4	0	0	3, 0	4	3	3
3	1	1	1, 3	1	1	1	1	1	2	3	0
3	3	3	3	3	4	3	3	4	4	3	0
3	3	0, 3	3	3	4	0	0	3, 4	4	3	2
3	3	2	2	2	0	3	3	3	3	3	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
3	3	3	3	3, 2	3	3	3	3	3	3	3, 0
2	2	2	2	2	2	0	0	2	0	2	4
1	1	1	1	1	1	1	3, 1	1	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
0	3	3	0, 3	3	4	4	0	3	4	3	2
2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	3	2
2	2	2	3, 2	2	2	2	2	2	2	2	0
1	1	1	1, 2	1	1	1	1	1	1	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
0	4	3	3	4	4	0	0	0, 3	4	3	?2
2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
0	0	0	0	0	0	0	0	3, 0	0	0	0
2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	2	2	2	3	2	2	2	0	0	2	2
0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
3	3	3	3	3	4	3	3	3	4	3	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	3	2	3, 2	2	3	2	3, 2	2	1	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0, 3
マツカ		マツカ	マツカ	マツカ	マツカ	マツカ			マツカ	マツカ	マツカ
0	0	0	0	0	0	0	3, 0	0	0	0	0
2	1	1	2, 1	1	1	1	2	2	1	2	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
0	3	3	3	2	4	3	3	3, 0	4	3	3
3	2	2	3	2, 3	4	0	3	0	4	3	2
1	1	1	1	1	4	1	3, 1	1	1	1	2, 1
3	3	3	3	3	4	0	3, 0	0	4	3	2